

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M・O・H communication

36号
2012
Summer

M・O・H通信 36号 — 特集「変革」企業の取り組み

特集: 変革「企業の取り組み」

2012 Summer



安見工房 安見勇人・麻紀さん

信楽ACTで出会った安見工房さん、shiroiro-ieで展示されていたアルパカがあまりにも可愛くて連れ帰りました。畑の一角に放牧した写真です。動物シリーズは今回の展示のために麻紀さんが制作された新作です。



【安見工房】

日々の小さな発見の積みかさねを、器に映しとることが出来ないかと思いつつ制作しています。雲や水玉、鳥など自然をテーマに、新しい試みをこれからも続けていきたいと思っています。
<http://www.eonet.ne.jp/~yasumikoubou/>
 mail : taihoodoo@nifty.com
 〒529-1833
 滋賀県甲賀市信楽町小川1461
 Tel/Fax 0748-82-2298



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★M・O・H通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- | | | | |
|---|---|---------------------|----------------------------|
| M | → | 循環
もったいない | 他の生命を奪って得たものを使わせて頂く |
| O | → | 共生
おかげさま | 人は一人では生きられない、環境によって生かされている |
| H | → | 抑制
ほどほどに | 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために |

contents

目次

M・O・H巻頭言

共生社会の中小企業経営道 森 建司 …… 3

M・O・Hな人

精緻な伝統の技術を受け継ぐ若き船大工が模索する未来 松井 光照 …… 8

M・O・H対談

**環境問題と地域貢献を通して
新時代の扉を開く人材を育成** 大田 啓一 & 森 建司 …… 11

特集「変革」— 企業の取り組み

① M・O・Hインタビュー 「ヤンマーアグリノベーション株式会社」

**農業を実践して課題に取り組む
農業機械メーカーの新たな挑戦** 橋本 康治 …… 21

② M・O・Hレポート 「美輪湖マノーナファーム」

人も野菜も心地いい農園で働く喜び味わうケアファーム …… 29

③ M・O・Hインタビュー 「MKVドリーム株式会社」

**太陽光利用型の植物工場に
農業の新たな可能性を探る** 安部 常浩 …… 31

④ M・O・H対談

大学×企業で食文化再生に挑戦 海老 久美子 & 金森 弘和 …… 38

⑤ M・O・Hインタビュー 「株式会社 東亜電機工業社」

**電力を自らの手でつくる明日へ
福島に市民の太陽光発電所を** 麻生 義継 …… 48

寄稿 地域創造事業「いきいき地域ウォーク」

豊郷・愛荘 歴史探訪ウォーク 丸山 紗千代 …… 55

楽しみ的人生

脳力開発を学んで積極的な生き方を身に付けよう 井上 昌幸 …… 59

心温まる物語

ニュージーランドの旅で感じたこと 今関 信子 …… 61

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 63

里のお話

ゲンジボタル 三山 元暎 …… 65

本の紹介 …… 66

講演日記 …… 67

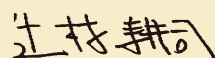
M・O・Hニュース …… 68

手話コーナー …… 68

通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙写真



エチガ谷の清流、湧き上がる
水に映る新緑が美しい。
滋賀県多賀町にある鍾乳洞
「河内の風穴」付近で芹川に
合流します。

共生社会の 中小企業経営道

森 建司

とも大切にしなければならぬのは、「値ごろ勘」だと教えられた。

商人はどこへ行っても、ちよつと目につく商品には、

「これ、なんほしますねん」

産業革命以前の社会に経済と称するものが、どの程度社会に対する影響力を持つていたのだろうか。もちろん当時は、出来るものは自給自足で賄い、出来ないものは他の生産労働をして消費に充てる費用は稼ぎだしていたのであろう。当時は職人による手作業が主な生産手段であった。それだけに生産ラインが自分たちの身近にあり、時には見よう見まねで自分でも作って見ることも出来たのだろう。

また各地域の商人たちによる情報網がそれなりに有ったと考えられる。

私も商売人だった父から、商人のもつ

と聞く。それが商人の基本だと言う。生涯それを繰り返していると、何を見ても、商品ごとの相場がおよそ解るようになる。その感性で全国を行商に回りながら各地の商品の相場に目を配り、意外に安い商品を発見すると、その原因を探りマークしておく。そして最も高く売れそうな所を探して売る。商機とはそうして掴むのだと教えられた。一般に流通している商品でなくても、仮に芸術品でも、不動産でも、希少価値のモノでも、専門性は

あるにしてもそうして価値観を身につけていくのが商人の資格の一つだと言う。

売るにしても買うにしても、顧客と相対して相手の要望に応えながら、値決めをしていく。その折衝を通じて、生涯信頼して付き合える相手か、そうでない相手かを見極めて、対応も変えていくのだ。

（この人とならば生涯お付き合いしても大丈夫）

と、信頼できる相手を見つけては、各地の情報拾っていく。相手も貴重な商売の情報源として大切にしてくれる。

商売は気の合う絆で結ばれた相手と自己との間で「利他と利己」の境を切り分ける倫理の位置づけが大切である。それが「共生社会経済」の重要な基本だ。

たとえ小売りの店頭のビジネスでも顧客との間では心の通い合う応答が必要だ。

小売商や喫茶店の様なサービス業でも、馴染の客は「おやじさん」や「女将さん」に会うのを楽しみにやってくる。

あいにく二人とも留守で店員が応対した

場合でも、客は帰り際に、

「おやじさんよろしく言うといてや」とことづける。

薬剤師しかり、掛かりつけの町医者しかり、自社の薬の売り上げよりも、客の困っていることをどう解決するのが一生懸命になってくれる、信頼して安心できる人、店、会社を客は求めているのである。

それが供給者と消費者の関係であり、そのささやかな経済の環境を創るのがコミュニティである。

しかし、今の小売業の業態は様代わりしてしまった。量販店の過激な競争はコストダウンに留まらず、巨大店舗はまさに遊園地でありイベント会場であり、ゲームコーナー、映画館、喫茶、食堂、なんでもありの正に家族全員の癒しの場になっている。休みの日には家中がその巨大マーケットに行き、家族それぞれが違う目的を持っていて、夕方に集合して一緒に帰ってくる。しかも買い物はその気にさせる見事な店舗設計と、店員の対応に乗せられて余分なものまで大量に抱え込んでくる。

しかし、そこでは人の絆は全く無視されている。しっかりと教育された店員がいても、それは研究され尽くしたマーケティング手法の一つであって、顧客を囲い込むこの設備全体の設計、店舗や商品の優れたデザインなどの一環であると解釈するしかない。

◆
本来、買い物をする客はその時に必要としているもの以外は、なるべく支出は少なく抑えたいのだ。

私は生涯を通じて、包装資材の販売をしてきた。主に工業包装と言われる分野である。工場間の輸送が目的の段ボールケースやプラスチック成型品、他にはテープ、バンド、ポリエチレンなどを扱っているユーザーを対象にした地方の販売店だったが、長い取引の中で、少しでもお客様の期待に応えようと、「何かお困りのことがありましたら、出来ることならお手伝いをさせていただきますので、何なりと仰って下さい」と申し上げると、実に90%のお客さんが、

「いやあ、経費節減と廃棄物削減で相手先から包装資材を減らせて言われて困っているんだ。包装資材の削減は以前からやってきているのでもう減らす余地はないと思うけど、専門家の立場から見ても減らす提案をしてくれないか」

営業マンは売り上げを増やすことに必死で取り組んでいる。しかし客はなんとかその包装資材を減らし、コストを下げ、廃棄物の削減をしたいと望んでおられる。この矛盾は当たり前のことなのだ。私たちにとっても、工業包装の資材を取り扱っている以上、その削減提案は重要なサービス行為なのだ。そして現実には輸送テストなどを繰り返し、半額程度に削減を成功させたことがある。これを提案することには社内でも反対意見があった。「少しでも売り上げを上げようとしている時に、そんな馬鹿な提案は無いだらう」しかし、顧客を信じて提案をしたところ大変な好評を得て、工場長の表彰とか、まだ受注していない他の部門からも受注できるように指示をいただいたりして、トータルでは売上が拡大した。

顧客が求めているもの（こと）はなにか。それに応えるにはどうすれば良いか。それが商売の原点だ。信用はそこから生まれてくる。最近の量販店では顧客に家族そろつての「癒し」を提供し、楽しませて、ウキウキさせて余分のモノまで買わせる。その応対をした店員が、場合によつては表彰されるかもしれない。

私は行きつけの電気店で、店員の応対で薄型テレビを買った時、画面の大きさに感動して私と女房はかなり大きい画面のテレビを選んだ。そこへ親しくしている店主が帰ってきて、

「そんな大きい画面は駄目だと思ふよ。お宅は夫婦二人で見るだけだし、それにテレビの部屋は確か八畳間だったね。こんな大きい画面だと、部屋の片隅で見ることになる。悪いことは言わないから、この画面ぐらいがちょうどいいと思ふよ」

結局、その店主の言うとおり小振りの画面のテレビにした。今でも、

「よかったな」



そのことを思い出すたびに、女房と領き合っている。

地域密着型のビジネスは「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の理念で行うのが基本である。売り上げの拡大、右肩上がりの成長にばかり気を取られ、顧客を洗脳し、高額商品はローンで買わせ、「消費は美德である」などと言うでたらめな価値観を正論とし、その波に乗って事業拡大に走ることが企業経営の道であるというのは、今では間違っている。それは過去の経営論である。

地球規模で見ると違うかもしれないが、少なくともわが国において、今後、経済成長は有り得ないだろう。生活必需品等において需要はすでに満たされている。新規の消費層は、少子高齢化による人口減少や、グローバル化による海外転出などによって増大する可能性は零である。今の高齢者層が体験した戦後の何もない時代から、大変なモノ余り時代に向けての経済成長の波は驚くべきもの

があった。その時代を引っ張った経営学は、これからの零成長長期には通用しない。むしろ過去の、物が無く貧困に耐えながら生きてきた時代の、倫理観や価値観を振り返った方が学ぶものが多い筈だ。

雇用関係にしても、現代の人事評価システムは必然的に格差社会を生み、不幸をもたらす。以前の様な終身雇用、年功序列が常識であった時代では、

「乏しきを憂えず、均しからざるを憂う」などと言いながら薄給に耐えてきた。利益の無い時は社長以下社員全員がボーナスを我慢した。

そして社員が一丸となって、利益の出る仕事を獲得することが出来た時は、全員で喜んだことだろう。それが現代の成果主義では、評価される本人以外はだれも喜ばない。社長など特定の人物が利益を一人占めにして、社員が安月給でこき使われる。それが少なくとも上場企業の普通の姿だ。言葉を変えれば、格差社会を作ることが企業の利益を生み出すことになるのだ。

現代の工業社会の成長企業と異なり、



「共生社会経済」の地域産業では、社員の手作業による生産や、近隣の固定客が相手の小売業から始まるので、薄給にならざるを得ない。生産現場もオートメーション化された大量生産型で無く、労働がきつくなる可能性もある。

しかし、少なくとも持続可能社会として安定した未来を構築していくためには、先端の科学技術に頼りすぎず、この経済至上主義が作り出した、過剰経済、自然破壊、資源枯渇など現代の危機的状況を背景とした、先進国の快樂的で、労力を必要としない社会とは違って、苦勞が多く辛抱をしなければならない面も出てくるだろう。その代わりその苦勞を超えて目標に到達した時の達成感ほもっと大きい筈だ。

◆
現代社会はまさに唯物論的価値観に犯されている。自分にとって必要としないモノ（たとえば私のように後期高齢者になると、使うことのなくなった観光施設の会員権、ゴルフ会員権、運転しなく

なった自動車、若いころのお洒落着)その他、興味も、さらには記憶も無くなっていくモノは、自分にとっては存在しないも同然である。にも拘らず身の回りには、以前使っていたものを含め、衝動買いしたものの、勧められて買ったもの、見栄で買ったもの、などなど不要なモノが溢れている。

質素節約のライフスタイルに転換しても、モノを大切に長く使えば買入物を減らしてやっていける。今は大量生産の供給サイドの都合で、本来、資産であるべきもので、消耗品化してしまっている。嫁入り道具に持ってきた晴れ着も、骨董品を含めて家の道具類も、子孫のために思いを込めて建てた家も、大量生産の安いものに押されて、資産としての評価を無くしている。商品のリピートオーダーが無いと大量生産の工場が止まってしまうからだ。

「物が豊かになると心が貧しくなり、物が貧しくなると心が豊かになる」という言葉がある。

「足るを知る」「知足」これも名言である。欲望を抑制して始めて人は幸せになると言うのだ。

大量生産には大量消費が必要であった。消費者に「消費は美德である」ことを本気で信じ込ませないと、経済成長は無くなり経済至上主義は成り立たなかったのだ。

持続可能社会はこれら経済至上主義社会の価値観を否定するところから始まる。大量システム社会は行き着くところ、自然破壊、資源枯渇、格差社会にたどりつき、激しい競争のあと崩壊する。そこには「共生」の思想が無いからだ。

一部の企業独裁によって寡占化される経済を地域に分散し、自立型地域産業を中心にした、人の絆によって培われる「共生社会経済」に取り戻さなければならぬ時が来ている。

それこそがあるべき「人の道」であり「中小企業経営道」の姿であると考えられるからだ。

【小説】中小企業相談センター事件簿

- 著書／森建司
- 発行／サンライズ出版
- 価格／2000円+税
- 内容／経営コンサルタントの杉山が設立した「中小企業相談センター」は、経営者の悩み相談にも当たっていた。業界の裏と表をドラマチックに綴る、弊誌代表が送る“中小企業小説”。



勇気源
いの壁を打ち破れ
森建司

● もりけんじ 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など
(著書)『吃音はある』遊タイム出版、『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版。

M・O・H
な人
その1

精緻な伝統の技術を受け継ぐ

若き船大工が模索する未来

松井 光照

松井造船所3代目船大工

木船を製作中。手には自作の丸小船ミニチュアが(工房にて)



1

① 滋賀県産材を使うモデル住宅「もいいえ」での企画展「木の旅」にて

水上輸送のために造られていた琵琶湖独特の木造船を「丸子船」と呼ぶ。名前の由来は、半分に割って両側面につけられていた巨大な丸太にちなんでいるといわれている。この丸太によって浮力とバランスをもたせて荷物をなるべく多く積めるように工夫された、非常に特殊な構造をもつ和船だ。

江戸時代から戦前までの最盛期にはおよそ1000隻が琵琶湖に浮かび、大津市堅田の湖畔に何十軒もの造船所が建ち並んでいたという。しかし、時代の流れにしたがって運輸形態が変化。丸子船は琵琶湖の風景から消えていった。

いまなお滋賀県で木造船建造の伝統を守っているのは堅田の松井造船、ただ一軒。しかし、松井造船には頼もしい3代目がいる。家業の先行きを心配して反対する父親を説得して、大学卒業後まもなく船大工の道を選んだ松井光照さんだ。琵琶湖博物館に展示されている丸子船は松井さんが中学生の頃、祖父が造って博物館に納めたもの。小さな頃から祖父と父の仕事場を見て育ち、自分自身ものづくりがずっと好きだった松井さんには「木造船の技術を残したい」という強い思いがある。

だが、松井さんの思いとは裏腹に木造船の需要はほとんどなく、船大工としての仕事はお寺や御所などの庭園に浮かべる小舟などに限られる。歴史的な船の復元の仕事に期待を寄せているが、生活のために鉄製の船の修理やさまざまな大工仕事、伝統的な木造船の模型制作など手がけている。

「仕事を続けていくうえで何か新しいことをしていかなないといけないと思っています。木を扱う仕事をしているので、木造の水車での水力発電も考えています。いま



② 美しい丸子船の腹 ③ 2代目父上の光男さんとともに ④ 船釘をつくる鍛冶も大事な作業 ⑤ でっかい水車もつくっちゃった

は水車も鉄やアルミで造れますが、地域の木を使った水車を田園風景の中に置けば雰囲気も良く、その地域活性化の役に立てるかもしれない。」

造船所の横には、松井さんが新たな可能性を探るために造ったかなり大きな水車が置かれている。最近、話題になっているエネルギーの地産地消に、歴史的な景観にとけこむ木製水車をいかに結びつけるか。そして志を同じくする仲間探しが今後の課題だ。

昔のような船運を復活させてはという声もあるが、それはまだ時期尚早と松井さんは考えている。まずは気軽に臆ごぎ体験できる木

造船、あるいは子どもたちが琵琶湖上で遊ぶきっかけになるような船を造ってみたいそうだ。

「いまのプラスチックの船では絶対に味わえない、なんともいえないゆったりした気持ちいい時間が木の船の上には流れているんですよ」

さまざまな木材や道具類がぎっしり詰まった仕事場で、木造船について話す松井さんの目は少年のように輝いている。話を聞いているうちに、木造船に揺られるながら琵琶湖の上に広がる大きな空を見上げてみたくなった。

丸子船 松井光昭

● まつい みつてる 1980年、大津市生まれ。2004年に摂南大学工学部建築学科を卒業後、東京の不動産会社に就職。2005年、家業の松井造船所に就職。1級古民家鑑定士、大津市消防団員、湖族祭り実施本部役員、牛肉サミット実行委員会事務局。

●対談



大田 啓一

滋賀県立大学 理事長・学長



森 建司

循環型社会システム研究所 代表

環境問題と地域貢献を通して 新時代の扉を開く人材を育成

「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する大学」として開学した滋賀県立大学。地域貢献と環境問題への積極的な取り組み、さらに震災の被災地での学生たちの復興支援などで、常に滋賀県内外から注目を集めています。今回は今年4月に滋賀県立大学の理事長・学長に就任された大田啓一さんをお訪ねして、現在の大学教育が抱える課題と、社会人基礎力を身につけた人材を育てるための独自の教育指針、さらにすべての人が新しい時代に向けて考えるべきことについてお話をうかがいました。

■滋賀県立大学(彦根市)

■2012年4月11日

自学自習で、学ぶ態度、を 学生に身につけてほしい

大田 『M・O・H通信』を読んで、環境調和や地産地消、共生といった境地に至るには、最初は徹底して議論をやらなくてはいけない、その議論の末にみんなが落ち着くところは共生しかないのではないかと思いました。そのためにも、大学でいまやらなくてはいけないのは、人々とちゃんと議論することを学生に身につけさせることなんです。

森 先生は自己充実で国際化に対応するとおっしゃっておられますが、具体的にはどういうことでしょうか？

大田 共生していくためには十分に真摯な話し合いをしなくてははいけませんし、そのためにはコミュニケーションの力をも身につけてはいけません。単に外国語を習うだけではなく、人の言うことを理解するには広い学識と学習を必要とします。また、しっかりと勉強しなくては自分の考え方をきちんと形成する思考もできません。さらに、正確に人に話をするにはプレゼンテーションの力もいります。

プレゼンテーションもきちんとトレーニングを受けないとできないものですから、環境政策・計画学科ではプレゼンテーションの授業を相当やっています。コミュニケーションはそうした学習の成果の上に成り立つもの。ですから「自学自習をしましょう」といつも学生に話しています。

森 ほう、自学自習ですか。

大田 はい。この日進月歩の時代であって、大学で習った知識がいつまでも役に立つわけがない。社会に出てからも、常に自分で勉強しなくてはいけない。結局、勉強する態度だけが大学を卒業した後もし一生残っていくのです。それに、社会的な課題には正しい答えなどない。いろんな人と議論して意見を交わしながら最終的に落ち着くような形にしないといけません。そのプロセスはやっぱりコミュニケーションですよ。本学では自学自習しましょう、コミュニケーション力をつけましょうを基本に教育しています。自学自習が充実感につながると思っています。
森 なるほど。ところで、ここ数年で学生の気質が変わってきたのでは？

大田 私はあまりそう思いません。学力が落ちているのはどうも事実なんです。学力低下の理由の二つはゆとり教育、二つめは試験を受けなくても大学にどんなに入れてしまうことです。

森 学生の学力低下は問題では？

大田 大学でちゃんと勉強させないことが一番問題だと私は思っています。恥ずかしいことですが、本学で授業の予習・復習の時間についてアンケートをとったところ「10分未満」が半分以上。生協の全国調査でも、学生が読書する時間はきわめて少ないという結果でした。これが欧米との一番の違いなんです。

欧米の学生が日本より 勉強しているのはなぜか

森 欧米はもつと自習するんですか？

大田 ヨーロッパでは授業は午前中しかありません。自習しないと授業についていけないから、午後は図書館へ行ったりチューターについていたりして勉強するんです。アメリカでもしっかり予習・復習しなければ授業についていけず単位を落とす。

アメリカは大学を出るのが非常にむずかしいんですよ。

森 アメリカでは大学に入るのはわりと容易なんですか？

大田 ある一定の学力レベルがあれば、大学に入るのはそうむずかしくないですが、卒業するのはたいへんです。

森 アメリカで大学卒業がむずかしいのはどうしてなんですか？

大田 アメリカの場合には、大学を卒業すると次にまたロースクールとかメデイカールスクールがあります。成績が上位でないと次に進学できないから、大学で一番勉強する。その反対に、日本は受験勉強が非常に厳しすぎる。あの厳しい受験勉強をやって大学に入学できたのだから、当然すらすら分かるはずだという教育を大学です。進学率が10数%のエリート教育と呼べる時代はそれで済んだんですが……。

森 なるほど。進学率が10数%の時代は、ほんとうに勉強をしたい人だけが大学へ行っただけでしょうね。いまは、本来は勉強したくない人も大学へ行くのでしょねえ。

キャンドルナイト 守山市小児保健医療センター(2011年1月) 写真提供:あかりんちゅ





「自学自習で学ぶ力を身につければ」大田学長(左)

大田 そうであつても、このレベルでは予習を2時間、3時間しなくてはとてついてもいけないという授業をやつて、学生に宿題を課して復習もさせて、欧米並みに自分でうんと勉強させることが大事です。進学率が高くなつて、しかも自学自習をする力をつければ、これは鬼に金棒です。

地域貢献に取り組んで 社会に教育してもらう

森 ところで、滋賀県立大学は特に地域に対してずいぶん貢献してこられましたね。地域貢献について、先生はどのように考えておられますか？

大田 ある新聞社のランキングで、本学は地域貢献に関してかなり高い評価を得ています。学生たちもさまざまな地域貢献をしているという評価を得ています。が、実は貢献は2割で、残りの8割は学生が社会に教えてもらつている。社会教育。だと私は思つております。社会に出て人とつながるとか、チームワークをつくるとか、リーダーシップをとるといった社会人基礎力は大学の中で教えきれることではありません。

森 その通りですね。

大田 例えば学生たちが豊郷町へ行って農家の方に栽培法を教わつて、使わなくなつたビニールハウスの中で野菜を作り、それを生協で売っています。また、環境建築デザインや生活デザインといったデザイン系の学科では、県内で古民家を改

装して活用することもしてきました。
森 震災の被災地で公民館が何か建てられましたよね？

大田 はい。まず去年の連休に学生たちが現地へ行って漁師さんたちが集まる番屋を建てました。これがたいへん歓迎されました。次に地元の方に頼まれて、本学の先生の指導で学生たちが集会所を作りました。また、神社やお寺からロウソクの残りを集めて新しいロウソクに作り直すという地域活動をしていた近江乗座のチーム「あかりんちゅ」では、震災でホタテの養殖が全部だめになつたと聞き、そのホタテ貝の上にロウソクをつけて「ホタテあかり」として商品化しました。それを売り出すことで復興のお手伝いをするプロジェクトも学生たちが立ちあげました。

これらは一過性ではなくて、東北までは非常に距離が遠いんですが、100名くらいの学生が現地へ通つて長くその地域と関わつてくれています。それができるのは地元の人にたくさん教えてもらつて、その上に立つて活動をしているからなんですよ。

最も大切な基礎は国語力 その上で外国語力を磨く

森 週休2日制のゆとり教育は、本来そういう目的だったはずですが……。

大田 時間割上のゆとりはあったんですが、ゆとり教育をさせる先生の教育をしなかったのが欠陥だったんです。このところの教育で気がかりなのは小学校での英語教育。英語の教え方がたぶん成否を分けると思います。だいたい国語を選ぶのか英語を選ぶのかなんでとんでもないことです。国語は断然大事なことですから。

森 以前、長浜で教育委員をしていました時に、市長が小学校は英語教育を絶対にやらないといけない、国語なんて自然に覚えられるというので、「そんなことはない！」と議論したことがあります。こうした矛盾は今後も起こってくるんでしょうか。

大田 外国語に対して一定の教育が進むと、それは起こらないと思います。国語を通して論理や思考を鍛える、あるいはものを理解し考え表現するのであって、

国語の土台なしにいくら立派な外国語の発音を習ったとしても、人としてしっかり立てない。国語の優位性・重要性はますます増すばかりで、英語と国語の二者択一ということは絶対にあり得ないと思います。

森 では、新設の国際コミュニケーション学科についてはどうですか？

大田 国際コミュニケーション学科を開設して、本学にも英語が相当できる学生が来ています。その学生たちに、とにかく基本的な勉強だけはしっかりさせて、その上に英語の力をつけさせようと考えています。基礎をおろそかにすることなく、できれば英語ができるのは当たり前でプラス中国語ですとか、プラスフランス語を言葉としてつけたいですね。

森 とところで、中学生の孫は本を斜め読みするんですね。これから情報時代に対応するにはそういう能力もいるのでしょうか？ 深く読んでいるわけではないようですが……。

大田 速読できる人に聞いてみると、普通の情報を伝えるだけの文章は速読できても、おもしろい小説はけっして速読でき

ないといっていました。私も授業で学生たちに「読むなら奥行きのある小説を読みなさい。ハウツーものは読まなくてよろしい」といつています。読むなら小説、聞いたら落語（笑）。両方とも想像力、イマジネーションを働かせるものだから。

森 ほんとうにそうですね。

大田 昨今はパワーポイントを用いて講義しますが、あれが授業を一番だめにしている。ほんとは先生は話だけで授業をすべきです。コロンビアやハーバードなどアメリカの大学では、学生との対話だけで授業をしている。あの力はないと思います。ポイントを押さえて、相手の顔を見ながら心に響くことを言って授業をする。あれは落語家が聴衆を見ながら話すのと同じ。100回聞いても毎回ちよつとずつ違う。あれがいいと思っ

うんです。
森 なるほど、それで落語なんですね。

環境問題のデイベートで 賛否両論から物事を考える

大田 特に環境の問題というのは自ら



勉強をしなければいけないことばかりです。本学には「教育ディベート」というおもしろい授業があって、30人クラスで5人ずつ6班に分け、15回の授業の一番

「ファシリテーション技法」の授業風景 写真提供:滋賀県立大学

最後にディベートをやらせるんです。例えば日本はクロマグロの全面禁漁・禁輸入すべきであるという課題で、賛成・反対に分かれて議論させるんですね。題だけは1、2ヶ月前に与えておきますが、賛成か反対かは当日に決めるので、この授業だけは学生も予習復習をたっぷりして両方の論理を事前に考えておかななくてはいけないわけです。相手のいうことをほんとうによく理解して考えて、自分の意見を表明しなくてはならない。これは三拍子揃ったコミュニケーションで、非常に教育効果が高いと思います。

環境をテーマにした授業ですので、温暖化問題とか食糧やエネルギーの地産地消の問題などの課題を設定します。論理をつなぐだけですから地産地消反対の方が勝つたりもしますけれども、少なくとも一つの課題について賛成・反対、両方の立場から一度は考えざるを得ない。このやり方は大学での教育としていい方法だと思います。

森 どんなに優れた論理にも自己矛盾があるわけで、その矛盾をつけば反対論は成り立つものですからね。

大田 何をやるにしても必ず両面があるわけです。私は海洋化学・大気科学が専門分野で、黄砂がどこまで運ばれるかの研究したのですが、黄砂が段々ひどくなってきた。いいことではありませんが、黄砂を待ち望んでいる植物プランクトンがカリフォルニアやアラスカの遠い海にはいましてね。黄砂の土壌や砂粒の中に入っている鉄分が運ばれるチャンスなんです。植物プランクトンは鉄分やマンガンがないと細胞分裂ができないので黄砂を待っているんです。このように物事には必ず両面があって、その両面を十分理解した上で何事もやらないといけません。

森 例えば自動車もそうですね。貢献は大きいですが、害も受けている。それを知っていなくてはならないと。

大田 そうです。両面相反することを突き詰めた議論をきちんとやって、しかもいくつもの過去の経験に十分照らした上で行動すること。そうした意味で、滋賀が行っているいろいろな環境の取り組みこそ、世界に大いに喧伝してしかなるべきだと私は思いますね。

滋賀の環境のすばらしさを 世界に広く伝えたい

森 以前、そのことを新聞にも書いておられましたね。

大田 国際コミュニケーション力をつけて日本の良さ、滋賀のすばらしさを世界の人に伝えてもらいたい。滋賀の普通を世界の標準にしよう。君たちには積極的な役割があるんだと入学式で学生たちに話しました。

森 滋賀に生まれ育っていると、滋賀の良さがあまり分からないのですが。

大田 去年の6月、バン格拉デシユのテレビ局が日本の環境について取材するため滋賀県に来ました。その撮影スタッフを本学の船に乗せて多景島沖へ出て、表面から40メートルのところで水を汲んで飲んでみせました。「湖の水がそのまま飲めるなんて信じられない。怖い」といつていました。こわくわ飲んで「うまい！」と(笑)。バン格拉デシユはちょうど50、60年前の川も池も死んでいる頃の日本と同じ状態なんです。現在、滋賀では家庭排水をそのまま流す人は誰もいませんし、

工場排水の処理もきちんとできています。ゴミの分別もみんな普通にやっていますし、肥料も農薬も普通に抑えようとしています。普通の生活の中で水と湖の環境を守っている。これが世界標準になれば、すばらしい環境保全です。「滋賀の普通を世界の標準に」を広く世界に伝えて欲しいと撮影スタッフに話しました。

琵琶湖は140万人が居住する真ん中にあるわけですから、琵琶湖の水を守るためには140万人全員が賢くなくてはいけないし、全員が普通に環境を守るということに徹していかないといけない。バン格拉デシユのテレビ局に、なぜこんなに水がきれいに保たれているのかと質問されたので「教育です」といつておきました。

森 子どもの頃、親に「伊吹山を見たらうちの築山と思え。琵琶湖を見たらうちの庭の泉水と思え」とよくいわれました。日本は伝統的な宗教観、倫理観で自然と共生してきたんですよ。

大田 まさにそうだと思います。八百万やおよぼすの神様がおられることで調和的な生き方を自然にできるようにしてくれましたよ。私たちは文化的な伝統におおいに助

けられているんです。

未来のビジョンをもつ 人材を育てるための教育

森 いま解決しないといけない問題と「こういう未来を作るんだ」という二つの軸があるはずなのに、政治は目先の対応ばかり迫られて現在の問題だけにかかりきりになっています。未来をみている人もいるけれども、それが世の中に伝わらない気がするのですが。

大田 ほんとうにそうですね。やはり、未来のビジョンだけはしっかりさせておかなければいけません。未来のビジョンと現実の間には矛盾がいくつもあります。が、もう少し長い目で物事をみていかなければ。エネルギーも地産地消しなければいけないとすると、技術は結局なんともなるんですよ。ただ現状では制度が技術に追いついていないため、新しい技術を抑えこんでしまっている。発電をしても送電はできないとか、道路の上を電線が越えてはいけなとか。制度を技術に合うように柔軟に変えていくところが少し

遅れている気がしますね。

森 文系の哲学や宗教を軽視する風潮にも問題があるように思います。

大田 そうなんです。大学ではそのところをしっかりと勉強させて、物事の考え方や見方をしっかりと教えないといけない。従来の制度を突破するには、しっかりとしたビジョンと、それを支えるものの考え方とか見方が大事になってくるでしょうね。

共生社会に向けて 中小企業がすべきことは

森 今後の循環型社会や地産地消について考えると、消費者に倫理観が欠けていることが私は気になります。

大田 確かにね。

森 消費だけしている人なんていないんですよ。どこかで働いて消費のための資金を得ているわけで、稼いだお金で輸入品を買ったのでは循環型の社会にならない。生産者と消費者とコミュニティ、三者が一体になって地域産業を支えていけないといけない。消費者にも企業を育

てる責任があるんです。弊誌では生産者と消費者の交流会「よばれやんせ湖北」をはじめ、さまざまな啓発運動を行っています。

また、われわれのような中小企業は時代の変革期にどんなビジネスをしたらいいかかわらなくて困っているんですが、大企業の下請けばかりやるのではなくて地域産業を育てて地産地消へ向かうように広く社会に働きかけていきたいと考えています。ところが、先生は今後の方針として国際化をあげられました。国際化と地産地消はちよつと方向が違う気がします(笑)。

大田 もちろん国際化のすばらしさを伝えていきますが、国際化の中にあっても必ず考え方はぶつかります。その落としどころがどこかを見極める能力がなければ、共生・共存はできないわけです。森さんがおっしゃったように、地産地消では作る者が買う者に何を学ぶべきか、買う者が作る者に何を学ぶべきかが大事なポイントですね。

のびのびと育つ風土のキャンパス





「省農薬は…」と大田学長(左)「省包装は…」と森代表(右)

森 消費者は生産者や流通業者が食べていける値段で買わないといけない。一方、消費者が望んでいるようにお金を使わなくて済む方法を供給側が消費者に提案すべきだと思います。

大田 そうです。一つの例として、究極的な省農薬は何か考えてみましょう。例えば朝8時の1立方メートルの大気中に稲熱病の病原菌の胞子が2000個あって、その中で落ちてくる可能性があるのは20個、そしてその中の10個が病害を起す可能性があるとなります。それなら、その10個が発芽しないために必要な量だけを田んぼにまけば究極の省農薬になるんですよ。大気のもニターをして、必要な農薬の種類と量と時間を決めさえすればいい。それでは農薬会社は商品が売れなくなるじゃないかといいますが、農薬会社がそういうシステムを作って、農家の人と利益を共有すればいいんです。究極の省農薬は農薬会社が行うというところがミソです。

森 先生のご意見には私は大賛成です！今日は有意義なお話を聞かせていただきありがとうございました。

長目で見ると
大田学長

● おおた けいいち＝昭和17年生まれ。昭和45年3月、名古屋大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学、農学博士。専門分野は環境化学、地球化学。日本学術振興会奨励研究員、静岡大学農学部助手、名古屋大学大気水圏科学研究所助教、名古屋大学地球水循環研究センター助教を経て、平成14年10月から滋賀県立大学環境科学部教授。平成18年4月～20年3月には同大学環境科学部長を務め、平成20年4月から同大学名誉教授、特任教授。平成21年4月～24年3月は同大学教育担当理事を務め、平成24年4月に理事長・学長に就任。

森氏のプロフィールは7ページ

変革

■変革 —「企業の取り組み」



大震災以降、私たちの生活は大きな変化を求められている。省エネ、節電で電力依存生活から脱却するか、新しいエネルギーで電化生活を維持するか、安定した安価な原子力の供給を受けるか？ 何とも悩ましい時代だ。企業も同じ、売れない、作れない、でも養わないといけない。食べなければいけない、しかも安心・安全・安定が求められる。あわせて日本は田舎と都会でくらしの格差が大きい。同じやり方でいいのだろうか？

企業の取り組みにも「変革」の兆しが出てきた。農、食、エネルギーへの新たなアプローチだ。“太陽の恵み”はだれにでも享受できる。土地にあった自然の恵みを商品にしてマーケティングし、障がいを持った人でも働ける場を作る。“日本の食”を見直し健康な体を作る。日本の伝統的な技法と新しい技術を駆使したくらし、今、まさにイノベーションが始まっている。

農業を実践して課題に取り組む 農業機械メーカーの新たな挑戦



橋本 康治

ヤンマーアグリイノベーション株式会社 代表取締役社長

● いまの時代をどう生きていくのか？

農業機械メーカー大手のヤンマーは、滋賀県長浜出身の初代社長が農作業軽減のために農業機械を開発したことに始まります。日本の農業の未来を見すえ、現在の農業が抱える問題点や課題を克服するために、ヤンマーは新たに農業の実践に乗り出しました。広島に農場を開いた目的や、日本の農業をどうやって活性化させることができるかの提案、今後の夢などを、ヤンマーアグリイノベーションの橋本康治社長に熱く語っていただきました。

■ヤンマーアグリイノベーション株式会社（大阪市）

■2012年4月3日

 豊かさが持続する農業を
そのためにまず農業を知る

ヤンマーは今年3月で創業100周年を迎えました。次の100年に向けて、ソリユーシヨニ+エンジニアリングⅡ「ソリユーシヨニアリング」をブランドコンセプトに掲げ、ただ機械を提供するだけではなく、経営や栽培方法などもすべて含めてお客様が抱えている問題点にソリユーシヨンを提供していく会社にしていきたいと、3年前から「ヤンマーアグリイノベーション」を立ちあげるプロジェクトが開始しました。環境と調和した持続可能な農業を産業化していくイノベーション（革新）に挑戦し、そのことで豊かさが持続する農業と地域活性化を応援していく会社を目指しています。

これまで農業機械を作るとかディーゼルエンジンを高出力に小型化するといったノウハウは会社内に蓄積してきましたが、改めて考えてみますと農業経営をどうやって高度化するかというソフトの部分はまったく手つかずでした。お客様のことを一番知っている会社

になつていかなないとソリユーシヨンは提供できません。例えばヤンマーは海外展開もしているのですが、日本式の機械では相手国の農業には対応できないんですね。まず農業を私たちが理解していないといけない。そのために、自ら農業をしてみようということになりました。農業をするのと同時に、後継者不足が叫ばれている農業の担い手を育てていけばいいのではないかとということで、最初に教育ファームをやることになりました。

こうして、平成22年9月に誕生したのがヤンマー100%の子会社、ヤンマーアグリイノベーションです。

 日本の農業が抱える問題と
ビジネスチャンスを考える

ヤンマーファームでの実践についてお話しする前に、日本の農業の現状とその中のビジネスチャンスについてみてみます。

「儲かる農業」のポイントは三つあります。どういう風に付加価値を上げて単価を上げていくのか、決まった面積でどうやって収量を上げていくのか、コスト

をどういう風に下げていくのか。

まずサプライチェーン（供給網）から考えてみますと、大手流通企業が販売面で一番多く情報をもっています。それが生産者のもっている本当の情報かというところではなく、マーケティング的に「このトマトが美味しいんだよ」という風に売れ筋の情報を消費者にみせているんです。実は情報を一番もっていないのが生産者と消費者。ネットの時代で消費者がかなり情報をもつようになりましたが、生産者はまだまだ情報をもっていない。ここに儲からない原因があると思っています。つまり、農産物を消費する企業や消費者のニーズによりマッチした「売れるもの」を、生産者が把握して作っていたことも重要なポイントです。

機械メーカーとしては、例えばいままでの機械化はただ収穫するだけで終わっていました。これからは圃場（はしやう）や生産物についての生産履歴管理システム上の情報は農家がインプットしなくても機械が自動的に集めるようにするとか。そういった農業情報はこれからどんどん価値が出てくるだろうと思います。

こういつたことを理解して付加価値をアップすることで単価をアップさせる提案をする。それには、われわれが自ら農業をやってみないとみえてこないことがたくさんあるんですよ。

狙い目は加工業務用野菜

もう一つ検討すべき重要な領域は、外食加工向けの農産物です。平成12年の農業と漁業を合算した食のデータでは、国内生産が12.1兆円、輸入品が3.2兆円。このうち卸市場を経由して、主婦の方がスーパーで買って家で調理する食材は、出荷時点で7.8兆円のものが消費する時点で15.1兆円になっているだけです。ところが、外食加工向けは国内生産と輸入品を足して出荷時に4.3兆円だったものが、消費者のところへいくとなんと65兆円になっているんですよ。この点から、業務加工用というジャンルの原材料を海外産から国内産に変えていくところに、儲かる農業の一つのチャンスがあるだろうと考えられます。あとは消費者に近づくとつれて付加価値が上がって

いるので、それをどうやって生産者側に取りこんでいくか。

ホウレン草を例にとりますと、1反(1000平米)当たりの加工業務用の収量は家庭での消費用の2倍にもなります。加工業務用のホウレン草は家庭用より大きく40センチか50センチに作り、調整作業は一切しないからです。ホウレン草は必ず外の葉を4枚取り除いて袋に詰めて出荷する。そうしたことを調整作業といえます。この調整作業にかかる時間は全労働時間(1反当たり)の50%にもなっているんですよ。スーパーの理屈で、外の葉がしおれやすいので主婦の方が見ると鮮度が悪そうだからとむいてくれるだけで、別に農薬がついているわけでもなんでもないんですよ。ポイルすれば食べられる。主婦の方も外の葉がついていてもホウレン草は安い方がいいじゃないですか。農家のこうした無駄な作業は、消費者が本当のことを知れば「いいよ、そんなことしなくて！」となるはず。消費者のニーズではなくて流通側のニーズで、そういう無理な作業を生産者に強いているんですよ。そうした無駄が、いまの農業の中

には多々あります。

ホウレン草についていうと、外の葉を取らないだけで作業効率率が4倍よくなり、収量はサイズを大きく育てることで2倍に上がる。つまり、儲かるという点でこれから注目すべきジャンルは加工業務用野菜といえます。

ただ、加工用は単価が安い輸入野菜、特に中国からの輸入が増えています。一方、トマト・ニンニク・生姜・葉草類など、中国からの輸入が減少している農作物もあるのです。これらを国内で作っていくことも考えられます。

グローバル時代を勝ち抜くポイントはどこにあるか

国内の消費動向を見ますと、安ければいいという人もいいますが、海外からどんどん農作物が入ってくる時代になると、顔の見える信頼できる農家から買いたいというニーズが出てくると思います。同時に、新興国の食がどんどん先進国化されてきていますから、日本の食材の海外での販路は、今後まだまだ広がっていく

可能性があります。

いまのグローバル時代に勝つためのキーワードを考えてみましょう。一つめは「連携」。10軒、20軒の農家が集まれば産地になる。滋賀県でしたら集落営農法人のような形ですね。農家ごとではなく、村ごと一つの法人をつくるという風にしていかないと。二つめは「好奇心」。好奇心があると創造性が豊かになります。その創造性がイノベーション(革新)につながっていくはずです。三つめは「小さいこと」を長所ととらえ、マーケティングなどをしてもっと小回りをきかせること。四つめが他のマネはしない、自分独自の色を大切にする。グリーンツーリズムなどでも、よその村がやっているのと同じことをしてはだめです。その村独自のものを作らないといけないですね。

機械化による野菜作り

さて、当社が広島県世羅郡に開いた第1農場では、まず加工業務用野菜の大規模経営モデルに取り組んでいます。農場の広さ10.4ヘクタールに10人の労働力

1億円の売り上げを目標としています。これが土耕栽培ではなかなかむずかしくて、ハウス栽培でしたらこれくらいの目標は達成できるんですけど。売り上げを2倍にするにはどうすればいいか、われわれは機械メーカーですので機械化農業で実証しようと挑戦しているところです。

水田には田植機やコンバインが一般に普及していますが、実は野菜作りにもそういう機械があるんですよ。乗ったままでキャベツやレタスをぼんぼん植えていくとか、乗ったままで収穫するといった機械開発までできています。野菜はいままで手作業でしたら、腰に相当負担がかかる。そこで機械を使えば人手をかけず体にも負担をかけずに、野菜作りを含めた農業ができるというモデルケースにしたいと考えています。

さらに、圃場別の作業管理システムを開発中です。世羅の農地は3キロ圏内に50くらいの畑が点在している状態で、人間の勘だけでは管理できません。そこでIT技術を使いながら、それぞれの畑がいまどんな状態になっているのかを「見える化」するようにしています。

1年間の農場実習による次代の農業リーダー育成

世羅の農場がもつ教育という側面からみますと、目指すべきは「農作業者」をつくるのではなく「農業リーダー」を育成すること。農業リーダーとは経営感覚と同時に高いコミュニケーション能力をもった人をさします。農業というのは地域のみならず人と一緒になってやらないとうまくいきませんので。そういう人材を農場研修を通して育てていきたいと考えています。

具体的には、広島県庁とタイアップで「大規模野菜経営実証協議会」を設立して当社が幹事会社を務め、ほかに資材メーカー、種子メーカー、IT企業、地方銀行が参加。そして厚生労働省の緊急雇用対策事業を活用して、給料を払いながら研修を行う形をとっています。第1農場には広島県内で農業参入を希望する企業から研修生を受け入れています。一昨年度は8名、昨年度は14名が卒業しました。われわれの教育ファームは、養成コースと実践コース、それぞれ半年コースでやっています。最初は基礎から学んで、



①キャベツ苗の定植機の操作研修風景 ②キャベツの苗 ③開墾1年目のヤンマーファームのキャベツ圃場

実践コースは畑を与えて実際にやらせる……失敗もめちゃうからするんですけどね(笑)。畑の整備や土作りなどの現場研修のほか、基礎を学ばないと応用も利かないのでいろいろな座学もやっています。また、研修生は企業に戻って農業経営をするのが前提ですので、経営管理もきちんと指導しております。最終的には、自分で経営してみても、失敗をどう克服していくかを自分で考えながらやっていける人材を育成していかなければいけないと考えています。

卒業された方はみなさん農業参入されています。農業の担い手をつくれれば、その人たちがヤンマーの農業機械を買ってくれる。戦略的に、そういうところもあります。

土作りと販路拡大を研究中

世羅のヤンマーファームは、もともとは赤土で石だらけの耕作放棄地でした。その土地を農業土木技術で農地にすることから始めて、1年でキャ

ベツがきちんと収穫できるまでになりました。この農場の土はよくないんですよ。ブラジルの大地みたいだといわれたこともあります。それなら、この土地を克服して農業をやれば、世界のどこでも農業ができるはずだと考えました。また、ほとんどの圃場は水田の畑化をしているのですが、水田はもともと水をためるところ。どう水を抜くか、技術的なハードルが高いんですよ。そうでなくても、土作りは時間がかかるもの。いまは研修生と一緒に勉強しながら土作りをやっているところです。

われわれの農場で作っているのは、キャベツを中心にタマネギ・ホウレン草・馬鈴薯・白ネギなど。特にキャベツは、名物の広島焼きにたくさん使われることもあって産地化を目指しています。

販路については、いまは契約栽培が3割、市場向け3割、産直向け3割で、あとはインターネットの販売などを行っています。

独自の工夫で連作障害を克服した成功例に学ぶ



4



5



④耕作放棄地の開墾作業 ⑤ヤンマーファーム第1期生

教育ファームを開いたといっても、実際にはまだまだ農家の方から教えていただくことが多いです。

静岡県の森町では、お米を作った後で同じ圃場でレタスをつくって、また同じ圃場でトウモロコシを作ると、田んぼを2年で3回使っている。これで売り上げ1億円の農家が続出しているんですよ。この水田3倍活用方式を始めた森町のSさんにもいろいろ教えていただいています。

水田3倍活用方式のコンセプトは「土作りのための米作り」。同じ野菜をずっと作り続けると土の中の特殊な微生物が増えたり、野菜がミネラル分を吸うので栄養分がばらついてしまったりで連作障害を起こしてしまいます。これを防ぐために、いったん畑に水をはって水田にする。水を流すと、いろいろな土壤細菌が流れ出ていって、また同じところで野菜が作れるんですよ。連作障害を起こさないために、水田にして水稲をやって、それが終わったらレタスをやって、レタスが終わったらスイートコーン

をやる。この方式で去年の売り上げは1億4000万。

さらに、Sさんは一昨年から耕作放棄地に次郎柿の苗を植えています。次郎柿は天皇陛下への献上品にもなっている森町の特産品ですが、いままで天然しかありませんでした。5年後に苗から育てた次郎柿を収穫して売り上げを2億円にするのが夢だそうです。すごい農家ですよねえ。息子さんも帰ってきて一緒に農業をやっていて、家族経営ですけどパートを20人くらい使いながら1億4000万の売り上げをあげている。やり方によつては米中心でも儲かるんですよ。

滋賀県もこういう考え方を取り入れてやっていた方がいいと思います。当社は東近江市フードシステム協議会に入っていますので、この話を滋賀県の農家の人の前でして、その会のメンバーで森町に見学に行きました。Sさんにも会って農地を見てもらって、これを滋賀でもやろうといったら、あまりにもギャップが大きすぎて想像ができないといわれてしまいました(笑)。

生産者と実需企業を結び、日本の農業を守る試みも

日本の農業にとつて驚異なのは、大手流通が今年3月半ばから中国産の米を扱い始めたこと。外食産業はほとんどが中国産の米を扱い始めています。価格が安いですからね。『M・O・日通信』が「よばれやんせ」などでやつておられるように、生産者の思いや苦勞を消費者に農作物と一緒に届けて「やっぱり外国産を買ってはいけないのかな」と思わせないとダメですね。そうでないと日本の、そして滋賀の農家は守れないと思います。

われわれも直接ではないんですが、販路マッチング事業も手がけようと準備しています。大手の実需企業から、こういう品質のものをこのタイミングでこの価格で欲しいというニーズを聞き取りして、生産者と結びつける。そういう具体的な情報を生産者は知りませんから。当社は実需企業からお金をもらう仕組みです。大手流通企業は産地開発専属のバイヤーがいて、実際に生産者側に向いて栽培契約を結んでいくんですけれども、中堅

スーパーマーケットはそういうことが自分たちでできない。そこで、われわれが生産者とともに産地開発をやつて、生産者と流通を結びつける。そういうことも事業としてやつていくつもりです。

ヤンマーの今後の展開

今後の展開としては、次世代の農業リーダーを育成して、まずは農業の高齢化に対応すること。農地は買うのではなく借りさせていただいて、地域にとけ込んでやつていく。また、統廃合によるJAの遊休施設などを有効に活用しながらやつていきたいですね。ヤンマーファームのまわりに研修生・卒業生の企業があったり集落営農法人があったりJAがあったりして、こういったところが全部グループを組みながらやつていきたいなと思っています。あとは、去年の3月11日の東日本大震災以降、消費者の方は本当に安心できる野菜を求めていますので、地産地消のニーズにマッチできるような生産者を育てていきたい。第一農場は広島にあります。第二、第三、第四

と全国に広げていきたいですね。

実はヤンマーの次のチャレンジとして、教育ファームとは別に「都市型農業」も考えています。都市に住んでいる人が安心安全な野菜を自分で作りたというニーズが非常にあって、家庭菜園が伸びているんです。都市在住の方はどんな形で家庭菜園を楽しみたいのか、そのニーズをくみとろうと3年前から大阪府箕面市で「家庭菜園ショップ・ヤンマー」というアンテナショップをやっています。そこでわかったのは、みなさん農地を借りたいんだけど、農地は一般の方は借りられませんのでハードルが高いということ。そこで、ヤンマーが農地を借りて、体験農園にして家族に来てもらおう。都市と農をつなぐ新しいビジネスを展開したいこうと計画しています。

農業機械メーカーとして新たな農業を提案したい

今年の1月、ヤンマーの新しいミッションとして「私たちは自然と共生し、生命の根幹を担う食料生産とエネルギー変換

〈企業の取り組み－①〉

「儲かる農業ビジネスモデル」の構築

農業生産の徹底的効率化
栽培技術イノベーション

次世代の農業リーダー育成
他産業からの新規参入促進

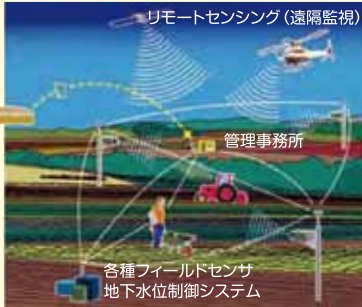
観光産業との連携による
地域まるごと活性化

農業の第6次産業化
加工・販売への展開

ヤンマーがめざす農業イノベーションの一例

衛星やヘリ、圃場設置カメラ、各種フィールドセンサを駆使して、CO₂や日照量、気温、土壌温度・水分・PH値、作物生育状況などを総合的に把握。

加工食品メーカーなど契約先からのオーダーに対応し、定時・定量・定品質・定価「ジャストインタイム方式」



の分野でお客様の課題を解決して、未来につながる社会とより豊かな暮らしを実現します」という言葉を掲げ、事業領域をここにぐっと絞りこみました。できれば化学的なものを極力使わずにバイオマスをうまく利用しながら資源を循環させて

いくとか、化石燃料を極力使わないようなエネルギー変換で土を耕していくとか、そういうところでソリユーションを提供したいというのがヤンマーの夢なんです。ヤンマーアグリイノベーションはその夢を具現化するためのもの。私みたいなものがやっていますので意志決定がすごく速いんですよ(笑)。意志決定の基準は楽しいか楽しくないか。お客様が楽しいか楽しくないか、自分や部下がやっていると楽しいか楽しくないか。儲からないとか誰も喜ばないなど思ったらやめます。楽しいこと、おもしろいことだったら徹底的にやりますよ。

今年2月には、兵庫県の養父市で市長とわれわれとヤンマー農機販売で包括連携協定というのを結びました。中山間地で農家の高齢化、後継者不足、耕作放棄地が増加している地域で、どうやって地域を丸ごと元気にするかを一緒に考えましょうと。地域活性化の担い手を育成しながら、その産品でどういうブランドをつくっていくのか、グリーンツーリズムで人に来てもらうにはどうしたらいいのか、そういうことを

一緒に考えています。そのベースにあるのも、やっぱり、おもしろいことですね。最後に、われわれヤンマーは本気で日本の農業を考え、農業にチャレンジしようとしております。そのことを『M・O・日通信』を通して、みなさんに情報発信する場を与えていただけて感謝しております。

同社は長浜市にヤンマーミュージアム(仮)を開館予定

夢 → 情熱 → 奇跡
創造 → 信 → 成巧
橋本康治

●はしもと かつじり1966年、大分県杵築市の水稲・ミカンの兼業農家に生まれる。1989年、ヤンマーディーゼル株式会社に入社。2007年経営企画部課長、2009年社長室ソリユーション・アリアンググループ部長を経て、2010年にヤンマーアグリイノベーション株式会社の代表取締役社長に就任。

人も野菜も心地いい農園で働く喜び味わうケアファーム



① サラダほうれん草の収穫風景

太陽光があふれる明るい空間にモータールトやヴィヴァルディのゆるやかな曲が流れる中、白い清潔なパネルの上にはほうれん草が柔らかな緑の葉を広げている。「美輪湖マノーナファーム」では人にも野菜にも心地いい環境に整えられた清潔な温室内で、サラダほうれん草・リーフレタス・みず菜など6種の葉物野菜が心をこめて育てられている。

この農園は知的障がい者の働く場として2011年4月大津市真野にオープンした福祉施設。障がい者も植物を育てることで自然とふれあい、働く喜びを味わえる癒しの農園、いわゆる「ケアファーム」と位置づけられている。

農園に導入されているのは「MKVDリーム」(31ページ参照)が開発した太陽光利用型の水耕栽培システムだ。閉鎖型苗生産装置(苗テラス)も併設されている。野菜に関する専門知識をまったく必要とせず、農業についてはまったくの素人でも栽培できるように作られたシステムなので、障がい者でも1ヶ月もすれば慣れられる単純な作業であることと、気候や天候に左右されず年間を通じて仕事が

② M・O・Hレポート〈変革「企業の取り組み」〉



② ③ 苗がすくすくと育つ「苗テラス」 ④ パンプレット ⑤ 目視でチェック出荷中 ⑥ 昨年完成、マノナファーム外観

毎日安定的にあることから、障がい者の就労支援としても全国で活用されている。放射能や中国からの黄砂などの問題に強い関心が寄せられている現在、ハウス内で風や雨といった外部からの影響を受けない栽培システムは安心・安全な食物を供給するためにも有効なもの。また、閉鎖空間とはいっても、太陽の光はたっぷり降り注ぐので作物が丈夫に育ち、おいしいのも大きなアピールポイントといえる。外部の影響を受けないことに加えて、病害虫の被害を防ぐように設計されている栽培システムであるため、葉物野菜は、いずれも無農薬で育てられている。

働く人にとっても食べる人にとっても安心・安全な野菜、障がい者が生き生きと働ける場、雇用の受け皿としての植物工場……いずれもこれからはますます重視されていくキーワードばかり。大きな可能性を秘めたマノナファームの今後の展開に注目したい。

● 美輪湖マノナファーム
 滋賀県大津市真野4丁目22-51
 TEL 0775-174-62364
<http://www.mano-na.or.jp>

太陽光利用型の植物工場に 農業の新たな可能性を探る



安部 常浩

MKVドリーム株式会社 営業部
栽培システム販売促進チーム チームリーダー

いままでは研究熱心な篤農家や長年の経験をもったベテラン農家でなくては、なかなか安定収入が得られないとされてきた野菜栽培。近年では、誰でもが簡単に取り組めるような野菜の栽培システムが開発されています。障がい者の働く場や異業種の雇用対策としても注目されている“植物工場”について、システム開発に携わってこられた三菱樹脂の子会社であるMKVドリームの安部常浩さんにお話をうかがいました。

■三菱樹脂株式会社(東京都)
■2012年4月19日

太陽光たっぷりの環境で
水耕栽培する植物工場

最初に、当社の事業内容について、おまかにお話ししますと、「MKVドリーム」という名称は「三菱化学ビニール」に由来しています。日本で始めて農業用ビニールを開発し、農業の進展を目指し、農家さんと共に、食料の安定供給に大きく貢献しました。現在、MKVドリームの商品には、農ビ、農POフィルムをはじめ、環境を考慮し自然に分解する生分解性マルチフィルム、節水型灌水資材、養液栽培システム、人工光の閉鎖型苗生産システムがあります。そうした商品開発を通して日本の農業の発展に寄与すること、それがわれわれの使命と考えております。

ところで、いま盛んに使われている「植物工場」という言葉は、太陽光など自然環境から完全に遮断した密閉空間で人工光だけで野菜を栽培するイメージが一般には強いようです。実際には植物工場にも3種類あり、弊社が採用しているのは太陽光利用型で、苗は、気候変動の影響



ハウスの外張りに使用される農POフィルム

を受けない完全閉鎖型で育てた後、定植時期になったら太陽光が降り注ぐビニールハウスの中で伸び伸びと生育させます。ハウス内は水耕栽培の循環式NFT方式を採用。これは毛管現象を利用し、必要最小限の培養液で植物を育てる方法で、上流から下流へ小川のように流れていく栽培ベツトの中に植物を植えていきます。

水耕栽培の欠点を克服して
安定的生産システムを開発

従来の農業というのは、天候に左右され、作物の品質や量が安定せず、価格も大量に野菜が市場に出回ると下がります。このように気候により収入が変動してしまうことが、農家さんの不安定な所得を生む大きな要因になっています。また不安定であるがゆえに後継者が育ち難い状況だと言えます。われわれは水耕栽培の技術を使って、こうした農業の現状をなんとか打破することを目指しました。

ところが、水耕栽培は様々な商品で構成されおり、初期投資が非常に高いという欠点を抱えています。しっかりと

した経営収支が見込めないと、多額の初期投資は非常に危険です。

経営収支を安定させるためには、儲かるものを作つていかななくてはなりません。そこで着目したのがホウレン草。キュウリやトマトなどの一般作物は単価が年間を通して上がったたり下がったりを繰り返しているのに対して、ホウレン草は圧倒的に夏が高い。それはつまり夏に作りにくいということ。それならば水耕栽培の技術を使って、品薄で高値の夏にホウレン草を安定的に大量に出荷することで収

支が合うのではないかと考えました。

ホウレン草は温度が上がると酸素要求量が増え、根に酸素が行き届かないと根腐れを起こしているような病気にかかってしまいます。そこで酸欠を起こさないように、従来の育苗方法を見直し、栽培ペットを改良し、根鉢の側面から産毛のような根毛を出さして、その根に酸素を吸わせることで酸欠を防ぎ、病気の発生を抑えました。また、発芽率を飛躍的に高めた苗の培地や育苗方法を開発したことで、他社に例を見ない夏場のホウレン草

栽培に成功しました。

しかし、水耕栽培は病気にかなりやらいという欠点もあります。作物の根はチエーンのように隣同士つながっていますし、培養液が循環式なので、水を媒介とする病気の感染スピードが非常に速く、全滅する事さえあります。そこで、弊社の葉菜用養液栽培システム「ナッパブランド」では、栽培槽をブロック分けして、一つのブロックが感染しても他のブロックへ伝染しないように改良しました。

現在では、この栽培システムを利用すれば、地域によりますがホウレン草栽培は年間16〜20回転できます。温暖な気候の鹿児島県でビニールハウス内で育てた場合、年間5〜6回転。弊社のシステムだと年間の収穫量が約3倍になるわけです。また柔らかく、無農薬だから生で、サラダで食べられるホウレン草として付加価値をつける事ができました。ホウレン草が苦手な子供たちにもサラダで食べられると評判です。

定時・定量・定品質・定価格で野菜ができてはじめて「植物工場」と呼ぶにふさわしい施設になるのです。



(上) 植物工場で作られた無農薬のホウレン草
(下) 植物工場で作られたたわわなトマト

〈企業の取り組み－③〉

苗は閉鎖型で安定生産 その後は太陽光で丈夫に

土での栽培でも水耕栽培でも、苗作りは農業において非常に重要なポイントであり、「苗半作」という言葉があります。品質は苗で決まるといっても過言ではないと思います。例えば台風や長雨などの天候不良で苗の生育にムラが出て、定植が1週間遅れると、収穫期が2週間も3週間も遅れてしまう。そうすると単価が一気に下がったりします。弊社の苗を育てるシステム「苗テラス」を完全閉鎖型としたのは、天候に左右されず、電気があれ



(上)人工光・閉鎖型苗生産装置「苗テラス」の外観
(下)および内部

ば、いつでも、同じ高品質の苗をムラなくきっちり計画的に生産できるからです。苗テラスで計画的に苗を作り、その苗を設備費があまりかからないハウスにおいて太陽の恵みで生き生きとした野菜を育てる。これがわれわれのシステムの特徴です。

苗を閉鎖型で作れるなら、定植して収穫するまで、人工光で栽培したいという要望もあるのですが、更にコストは上がりすぎ、東日本大震災以降は節電やエコの観点からも積極的に太陽光を利用するシステムがやはり良いとわれわれは考えています。

環境負荷を減らす工夫

今後、注目されてくる課題は環境問題への取り組みです。昔の水耕栽培は大量の培養液を一定の周期で捨てていました。廃棄する養液の中には環境に良くないとされる窒素やリン酸、カリなどが含まれています。

その点、弊社が開発した栽培システム「ナッパーランド」では、栽培区画をブロック分けしてあるので、収穫が終わったブロックだけを掃除したり培養液の濃度を調整したりできます。生育期間中はずっと肥料を与えていますが、収穫2日前から供給する肥料を水に切り替ええます。そうするとタンクに残った濃い液を薄めながら植物に吸収させ、排出量も下げます。葉に含まれる硝酸濃度もぐっと下げられるんですよ。実際の作業はバルブをひねるだけといったって簡単です。

さらに環境に良い方法は、残った培養液をプランター栽培に使うなどして循環型にすること。われわれの農場では、この培養液の排出液を更に再利用しています。ブロッコリーや空心菜が勝手に育つて



植物工場で作られたサラダナ

いますよ（笑）。こうして環境への負荷を低減しています。

土での栽培の場合は、肥料を与えすぎると地下に浸透していつて連作障害を起こしてしまう。連作障害を鑑みて肥料調整をして美味しい作物を作る研究熱心な農家の方ももちろんいらっしゃいますが、われわれはもつとわかりやすい栽培方法を考えたのです。

雇用対策として 異業種の注目を 集めている分野

弊社の栽培システムの開発コンセプトは、高度な技術が必要な野菜栽培を誰にでも簡単にできるようにすること。

誰にでもできるという利点を生かして、全国16ヶ所

の社会福祉法人の知的障がい者施設（福祉工場など）に弊社のシステムが導入されています。無農薬なので障がい者の方も安心して一緒に働けるんですよ。滋賀県大津市のマノーナファームさんも（29ページ参照）その一例です。

ただここで一つ注意したいのが、植物工場はすべて無農薬だと誤解されている方も多いのですが、弊社の栽培システムで作れる約60品目すべてが無農薬で育てられるわけではありません。ホウレン草は無農薬で作れますが、栽培期間が長いトマトや密生する小ネギなどは病気にかかりやすいので農薬を多少なりとも使わざるをえません。同じ施設の中で農薬を使う作物と無農薬の作物を混ぜて育てることはできませんから、無農薬にする場合、栽培できる野菜がある程度限られてくるのも事実です。

さきほどの16ヶ所の福祉工場を含めて、いま全国で100ヶ所ほど弊社の栽培システム「ナッパブランド」が採用され、98%のお客様がホウレン草を無農薬で栽培しています。最近は雇用対策の一つとして、農業以外のいろんな異業種

の方が水耕栽培をやりたいと来られています。その場合も栽培する野菜の種類は限られてきます。トマト栽培は1反で1人か2人で栽培できますが、植えてから90日後の収穫期が忙しくて多くの人手が必要になります。普段は多くの雇用は必要ないので、トマトは雇用対策にはあまり向きません。一方、弊社の「ナツパールランド」の場合は、毎日種を植えて、毎日定植して、毎日収穫して、毎日袋詰め作業があります。春夏秋冬、1年を通して毎日、定時間、しっかりと仕事があるため、雇用対策に役立つわけです。

ほんとうの安心安全、 エコや環境を視野に

最後に弊誌の疑問に答えていただきました。
辻村

太陽光を浴びた旬のものも味わえるし、植物工場で管理された作物もある。二つを併用すれば安定的に野菜が手に入るというのは理想的ですね。

安部 三菱樹脂グループが農業用ビニールを開発・製造してきたのは、食糧の安定

供給のためですから。プラスチックのフィルムの下で育てることを気にされる方もいらつしやいますが、被覆資材がなければ強い風雨や低温、害虫などの影響を受けて、作物の状態は非常に不安定かつ不作業になる場合があります。不安定なもの栽培すると、農家さんの収益は更に不安定になってしまうんですよ。また、主婦の方で「工場」という言い方を嫌う人もいます……工場で作るといって、何か工業製品のようなイメージをもたれるようにで（笑）。工場というのは、天候に左右されず、計画的にきちんと安定した品質と量を作り上げるといふ施設の呼び方なんです。

辻村 農作業をする時は土を掘りおこさないとけませんから、必ず重油や機械が要ります。こちらのシステムは電力だけでいけるんですか？

安部 そうです。トラクターなどはまったく要りませんね。ただ電気は必要です。
辻村 すごくたくさん電力がいるというわけでもないんですか？

安部 普通の農業に比べたら電気量は多いです。ですから、生産したいという方に

は電気代などの生産コストや生産物価格などの情報を計算して、これくらいの場合で売らないと収支が合わないとか、こんなに人数をかけてやってはいけないといった経営収支表を必ず提出しています。
辻村 滋賀では卒原発ということで、電力を節約しようという気運が高まっています。もう少し投資するつもりがあれば、太陽光とか水力発電などを取り入れる可能性はありますか？

安部 もちろんコストに見えれば可能性はあります。例えばLEDは、いまはまだ経営収支的に合わないんですよ。作物を栽培するには、作物品質のレベルにもよりますが、ものすごい数のLEDが必要になります。ビニールハウスの上に太陽光パネルを併設し、電力を賄う工夫もありますがいまはコストが合いません。

辻村 コストが見合うようなLEDや太陽光パネルといったものが開発されれば、可能性もあるわけですね。ところで、御社が栽培法の指導をしながら機材一式を農家に提供しているんですよね。そういう栽培をやりたいという方の反応はどうですか？

安部 もともととは農家の方が儲かる農業を実現しようとするシステムを作り上げましたが、いまの社会情勢の中でいろんな異業種の方が農業に対して関心をもち企画されているというのが現実です。食の自給率の問題や原発問題で、やっと社

会全体がほんとうに食の安心安全を考えるとようになってきて、一般企業が新たな社会貢献のために農業に参入したい、または土地を有効に活用したいというケースが非常に多いです。また、いままでは家に比較的余裕のある方が安心安全だからと高い野菜を買われていたのですが、いまは価格ではなくて安心安全を優先して買うという方の比率が多くなってきています。そういう意味でも、時代に即応した商品であると思います。



「まっすぐに、明日の食のために」安部氏

辻村 もしもの時にも役に立つという意味でも、これからの日本の農業において選択肢の一つとして欲しいものですね。
安部 『M・O・H通信』のイベントを通して、農業・漁業の生産者と消費者が交流して、お互いの距離を縮めていこうという取り組みは、とてもすばらしいことですね。作ること、食べることにみなさんが熱心に取り組みるのが一番大事だと思っ

ています。食べるということがどれだけ大切かを産地消というテーマで考えてくださることは、われわれにとっても嬉しいことです。大目標は「食の安全」。いろんな業種の方たちが集まって食の安全について話していただく。そういう気運を高めていただく。そういう活動は日本の未来にとってすごくいいことだと思います。

辻村 どうもありがとうございます。

来年1月よりMKVドリーム株式会社は、三菱樹脂アグリドリーム株式会社に社名を変更します。

「食の安全」を

栽培システムを通して

応援します。

安部 常浩

●あべ つねひろ 1985年駒澤大学経済学部卒業。同年大洋興業株式会社入社。2009年7月MKVドリーム株式会社入社。

●対談



海老 久美子

立命館大学スポーツ健康科学部 教授



金森 弘和

株式会社富久や 代表取締役

〈 変革「企業の取り組み」〉

大学×企業で 食文化再生に挑戦

“食”で新しい時代を切り拓く

立命館大学では日本の食を見直し、食を核にして地域や企業とつながろうとするユニークな取り組みを行っていると聞き、管理栄養士、公認スポーツ栄養士でもある海老久美子先生をお訪ねしました。ふだん何気なくしている“食べること”を考える大切さについて、また、海老先生の指導で高校球児のための「部活食」を作った「富久や」の新分野へのチャレンジについて、海老先生と富久やの金森社長にお話をうかがい、日本の伝統的な食への熱い思いを語っていただきました。

- 聞き手 循環型社会システム研究所代表 森建司
- 立命館大学スポーツ健康科学部レコスタジオ(草津市)
- 2012年4月4日

🍷 スポーツ栄養とは何か？

森 まず読者の方に、海老先生のご専門・スポーツ栄養学とはどういうものかをお話いただけますか。

海老 「スポーツ栄養」という言葉が一般に使われるようになって随分経ちまし

た。みなさんがよく知っていらっしやるのはトップアスリートの栄養サポートとしての役割なんです。NPO法人「日本スポーツ栄養士研究会」では、スポーツ栄養の対象をトップアスリートだけでなく、子どもたちや高齢者の方々も含めてスポーツを中心とした身体活動量の多い

人たちと定義しています。そして、そういった方々の食事の仕方や食事の量、健康をスポーツ栄養で担当しようと考えています。例えばマスターズでがんばっていらっしやる高齢者の方、これからトップアスリートを目指す子どもたちの食事、スポーツ栄養の一つとしています。

森 先生は高校野球との関わりも深いんですね。

海老 私の父が高校球児だったこともあり、スポーツ栄養という言葉もなかった20数年前に前職でたまたま野球の選手を拜見する機会がありました。そのときに野球を指導していた先生が「グラウンド……つまり土は球児を育てる、食べものもそこで育つ。だから、その土地のもので球児を育てていきたい」とおっしゃって、その通りだと思ったんです。

スポーツ健康科学部というと、どちらかといえばアクティブな、あるいはいろいろな実験的な研究がメインになりがちですが、選手の健康を考えると安らげる食の空間を作るべきだと考えました。そこで、この栄養調理実習室「レコスタジオ」は家庭の居間を想定してちゃぶ台を



〈企業の取り組み－④〉

置き、大阪ガスさんの協力で、がんばって料理しようと思えるシステムキッチンにしました。床暖房も入れて、みんなが勉強したりスポーツしたりで疲れたら、ごろんと寝転がったりお茶したりできる場所になって欲しいと思っています。

森 学術的な研究だけでなく、その周辺

の有り様も考えておられていいですね。いま世の中は人の幸せよりも経済優先になっていきますが、それをやめようという方向ですね。

海老 私たちが目指すべきは、生活の質の向上だと思います。それをどこで計るかはいろんな考え方がありますが、やは



「楽しそうですね」右から、森代表、海老教授、金森社長、辻村

り美味しいものを食べて「美味しいね」と笑顔で言い合える環境作りが一つの大きな要素ですね。

自分でおにぎりを握って 五感でご飯を知る教育

森 ところで、野球をしている球児に合うおにぎりがあるんですか？

海老 あります。私の著書『野球食』のサブタイトルは「飯が握れない選手はボールも握るな」なのですが、そこにはまず自分でご飯をしっかりと見て感じて欲しい、食べさせられている。だけでは絶対強くなれないことを選手たちに分かかって欲しいという私の思いをこめています。運動している子どもたちはお腹が空いていますから、そのお腹が空いて一番感性が敏感な時に、ぜひ自分で自分が食べるご飯をちゃんと見て、お茶碗一杯分のご飯がおにぎりにするとどれぐらいで、そのおにぎりを何個ぐらい食べれば自分が練習するのに必要なエネルギー源になるかを、自分の目秤、口秤、腹秤、そして五感で感じとって欲しい。



① 長浜病院近隣に位置するおくどさん ② かまどのごはんはほっこりおいしい ③ ごはんのおかずにとびったりな惣菜たち

食で消費者と 直接関われる 仕事の形を求めて

そのために、まずおにぎりを作らせるんですよ。お米も、稲からとってきたお米をどう精米するかによって感じが違ってきますよね。それをどう炊いて、どうやって美味しいおにぎりにするのか、腐りにくくするためにどういう工夫が必要かという一連の過程を、ここで学んで欲しいと思っています。実際に学生たちにお米を研んでもらって、精米の仕方で糠が残っている感じが、ほとんど丸裸の状態の無洗米が変質しやすいことなどを、手で触っての感覚で知って欲しいんです。

森 「富久や」さんはお総菜を提供して、企業の子社員食堂もやっておられる。海老先生と一緒に高校球児のための食事「部活食」を作られました。が、同業者でそこまで食について掘り下げているところは少ないんじゃないですか？

金森 給食には学校給食や病院給食などありますが、われわれの仕事は産業給食という分野です。その産業給食に携わっている会社はリーマンショック以降、値引き競争になってどこも非常に苦勞しているんですよ。「おくどさん」という総菜店を始めたのも、自分たちが思いをこめて作ったものを消費者の方に直接提供できる形がないかと考えてのことでした。

森 海老先生と一緒に部活食を始めることになったきっかけは？

金森 海老先生とお知り合いになったのは、一昨年2月に彦根東高校の元野球部監督・今井先生からいただいたお電話がきっかけでした。今井先生は選手の間で体づくりには筋トレや練習だけでなく、食事が非常に大事だということを研究しておられて、ずいぶん昔から海老先生



4

4 「うまい」バクバク

5 もりだくさんメニュー(部活食メニュー)

にご相談しておられたようです。そうして生徒たちに部活後の食事のとり方を指導しておられたんですが、部活の解散後に生徒たちがみんなコンビニなどでコーラを飲んだり、菓子パンを食べたり、好き勝手に食べてしまふ。そして、その足で学



5

習塾に行ってしまう。そのため、摂るべき栄養を摂るべきタイミングで摂れないと困っておられて……。

海老 そうなんです。今井先生から「海老さんのいわれる通りに、ある程度しっかり食べさせてはいるんだけど、それでも限界が見えてきた」とご相談があった。消費エネルギーが大きくて摂取エネルギーが明らかにそれに追いついていない。それに、高校生で成長期でもありません。例えば夏の非常にトレーニング量が多い時の高校野球部員が1日に消費するエネルギーについては、約5000kcalという報告もあります。普通の20代男性で必要となるエネルギーの倍量を消費しているわけです。球児が体をより大きくより強くしたければ、それ以上のエネルギーが必要になる。ところが野球は練習時間が長くて、遠方からの通学にも時間をとられるため、食べる時間と休む時間を確保するのがすごくむずかしい競技なんです。

私立の強豪校のような寮がない公立高校では、練習が終わった後すぐに食事が提供できない。しかも彦根東高校は



「泣くほどうれしい仕事です」金森社長

に立っていると嬉しかったですね。企業家なので、今井監督と海老先生にお願いして、事業化を前に部活食に取り組んできました。いろんなところでこういう食事を利用していただけるようになれば、もっとたくさん強い選手ができて……そうなれば消費者の方と喜びを分かち合えるのではないかと思います。

🍴 作り手と食べ手の近さが食べものを美味しくする

森 野球部に提供された食事はどんなメニューなんですか？

金森 日替わりです。春先や夏場の試合直前の食事のあり方、あるいは体づくりをする冬場のメニューなど、すべて海老先生からご指導いただきました。また、生徒たちからも食べた感想を聞き取り調査しました。味つけは塩辛いのがいいのかと思つたらそうでもないし、それなら薄ければいいのかと思つたらそうでもない。夏場だから食欲をあげるために少し

進学校なので半分近くの生徒が塾に通っている。電車の本数もそう多くない。その結果、食べて欲しい時間に夕食がとれないんです。夜遅くに帰ってから夕食をとると、朝ご飯が食べられない。それで生活のリズムが乱れる。そんな状況で、どんなに「しつかり食べろ」「夕食がとれない分を間食で補え」といってもなかなか補いきれない。そこで週3回でもいいから練習が終わったすぐ後にみんなが食事がとれるようにしようと、富久やさんをお願いするようになりました。

🍴 楽しそうに食べる姿に感動して泣きそうに

森 なるほど、そうだったんですね。

金森 とりあえずやってみようと始めたのですが、生徒たちが食べている姿を見て私は感動して泣きそうになりました。練習でヘトヘトになっているのに、それはもうバクバク食ってワーワー話しながら

楽しく食べている。どんだけ食うんやろうっていうくらい食うんですよ（笑）。楽しい仕事だなと感じました。これからも楽しい場づくりと体づくりのお手伝いできたらいいな、一生懸命やらせていただくと思いました。

きちつと科学的な根拠に基づいた献立で美味しいものを食べていただきたいので、海老先生にご指導いただきたいのに食事提供を始めたのが一昨年3月5月か6月初旬ぐらいには、選手の体重が10キロぐらいい増えた、あるいはホームランを打てる数が増えたそうです。

森 結果が出たんですね。

金森 はい。そういう話を聞いて、お役

香辛料の効いた食事がいいのかと思つたら、案外そうでもないとか。栄養ばかりではなくて、楽しく食事をするのが体に最もいいので、時にはうどんとか丼、カレーなどいろんなメニューを盛りこんでいます。飽きずにたくさん食べられて、野球に向けた体をつくる工夫をいろいろやってきました。

海老 作り手と食べ手の距離が近づけば近づくほど食べものは美味しくなると思います。逆にそれが離れていくから、だんだん責任の所在が分からなくなつて、まづいものになつてしまふんですよ。近くにいっても食べ手と作り手のコミュニケーションがないと、どんどん食事はまづくなつていってしまうし、多少距離があつてもそこでいろいろその食事についてデイスカッションしていれば美味しいものが食べられるんです。

森 本当にそうですね。

海老 最初に富久やさんにお会いしてそういうお話をして、選手たちには「作り手のみなさんにあなたた

ちのファンになつてもらいたくない。ファンになつてもらえは放つておけなくなるから」と。

金森 それが私です(笑)。

海老 そうなんですよ！ 金森社長がみごとにはまってくださつた(笑)。社長自らがグラウンドに来られたり、担当の方が「どんな食事がいいでしょう？」と、私がアドバイスする前に聞いてきてくださつて。どんなメニューが最適か、最初は誰にも分からないんですよ。だから、どういう時期にどういったものを食べてどうであったのかをモニタリングして、富久やさんのみなさんと調整しながら一緒にいろいろやってきました。

食事が苦行に!? 食事を美味しくするには

金森 今井監督から、体づくりをするために食べることを練習のように押しつけた時期があつたと聞きました。

海老 私は美味しくなかったら食事じゃないという考え方なんです。プロテインもサプリメントも全く否定はしませんが、それは食事ではない。今井先生もそういうお考えでしたが、選手の体重がなかなか増えなくて「とにかく食べ！」になつてしまつたそうです。

金森 食べることが苦行になつてしまつた。本末転倒でかわいそうですね。

森 ガンで半年ほど入院した時、ずっと糖尿病食で……これがまづい！ しまいにこんなの食べて生きてたつてしようがないという気がしてくるんですよ。食事は本当に大事ですよ。

金森 森さんの体験も今井先生のお話と同じことですな。

海老 確かに、繰り返しものをだしていると飽きてきます。



「はまってしまいましたネ」海老教授

それに、みんなが自分の好きなものを食べられるわけでもありません。そこを食べる気持ちにさせるのは、毎日続いているこの食品には、こういう意味があるんだよと意味を伝えたり、ちょっと声をかけたりすること。それが香辛料やエッセンスになって、より美味しく感じられることもあると思います。

森 工業でのものづくりとは違ったところで、もっと人を幸せにする日常があるんですよね。ところで、部活食から新しい展開があったとか……。

海老 今回の取り組みを一つの高校に限定せず、もう少し活動として広げて県内に根づかせ、県内の子どもの体力強化や食を考えていくために「食とスポーツを育む会」ができました。今井先生をリーダーとして各競技の県内トップクラスの指導者の方々にレコスタジオに集まっていたら、食をどう考えるか、指導者自らを取り組む勉強会です。この取り組みには、富久やさんが申し込んでいただいた「しが新事業応援ファンド」の支援を受けています。みなさんの話し合いから、自分のチームに何が足りないのか

とか、自分はこんな食のプログラムをやってみようとか、先生方ご自身からご発案いただいたり、それを私と富久やさんでその現場に対して一番いい形でお手伝いする取り組みを去年から始めました。その成果をシンポジウムとして12月にここで開催しましたら、200人以上の方が来てくださったって驚きました。

🍷 日本の食文化を見つめ直す

森 少し話が飛躍しますが、いま注目されているTPPの農業問題で、国産の農産物が輸入の安いものに取って代わられる心配がありますよね。弊誌を通して産地消を推進する運動をしています。国産を中心に買うという消費者倫理をまず確立しないとイケないと強く感じています。

海老 消費者倫理の向上ということだと思いますと、このレコスタジオを地元・滋賀のスポーツ健康食の発信基地にしたいという思いもっています。滋賀のキャンパスで学んでも、滋賀の食材や食のことを知らない学生が多いので。それ

とは別に、このレコスタジオでは毎年、スポーツ栄養学の第一歩として新入生はまず最初に学部長も同席してみんな一緒に朝ご飯を食べます。自分の食事をおろそかにしては人の健康は担えないという考えからです。中には、ご飯を置く位置が右か左かわからない、という学生がいます。また一つの料理をずっと食べる「ばっかり食べ」の学生もいました。ファミレスやコンビニ、ファストフードに慣れていると一つのものだけをずっと食べてしまう癖がつくのもかもしれません。左にあるご飯を左手で持つ、だから右手でお箸が持てる。その美味しさと香りを味わいながらおかずと一緒に食べようねということから始めます。

森 いまの子どもは冷蔵庫を開けて、その場で食べてたりしますから。

海老 スポーツ栄養学では、まず必要なエネルギー源となる糖質を中心にして摂ること。糖質は体にとっても脳にとっても大事なエネルギー源です。日本食は米飯でしっかりと炭水化物を摂れるのですが、日本の子どもたちは米飯をしっかり食べられなくなっているように思います



レコスタジオからやさしい会話が聞こえます

……ちよつと心配ですね。
森 食生活といつても、栄養より食事の作法がなくなりつつあることに問題があるのですね。ライフスタイルを元に戻す

ことも必要かもしれませんね。
海老 日本では3歩歩けば自動販売機やコンビニがあつて手軽に血糖値を上げることができます。それに、いまは何も

しなくてもいろんな要らない情報まで入ってくるので、昔とまったく同じ状態に戻すことはできないと思います。いっぱい情報があつて、当たり前のように血糖値が上がってしまったら、一つ一つの食べものをちゃんと見なくなる。だから一つ一つきちんと見ること、一杯のご飯はどういうものなのかを教えていくことで、食卓の意味が変わってくるかもしれないです。

新たなビジネスを開拓して その輪を滋賀に広げたい

森 富久やさんは今回の取り組みを、今後どのようなビジネスに発展させていこうとお考えですか？

金森 食を通して県下のいろんな運動をやっている人たちのお手伝いをしていきたいですね。研究開発として1年やってきて、本格的にビジネスに進むのは今年の4月から。まずは需要を掘りおこなうてはいけません。あれだけのカロリーと栄養分を摂ろうとすると、それなりの価格になるんですよ。価格だけにとら

〈海老久美子先生著書〉



2001年10月

■野球食

- 発行／ベースボール・マガジン社
- 価格／2000円+税
- 内容／「メシを握れない選手はボールを握れない! 強くなりたい高校球児のための「食」のすべて。

2007年2月

■野球食Jr.

- 発行／ベースボール・マガジン社
- 価格／1400円+税
- 内容／「食」のトレーニングは先手必勝! 小中学生球児よ、しっかり食べるための土台を作ろう!

2010年8月

■アスリートのための食トレ

- 発行／池田書店
- 価格／1400円+税
- 内容／食べ物の力で強くなる! 栄養素だけでなく、「実践的スポーツ栄養読本」。

2011年8月

■野球食⁶のレシピ

- 発行／ベースボール・マガジン社
- 価格／1600円+税
- 内容／球児の体を作り上げてきた10年分のおいしさの集大成。全レシピ、エネルギー・栄養素量を明記。

われず、有用性などをみなさんに理解していただく取り組みをして、新しいマナーケットを作り上げていきたいと考えています。

森 まだ手つかずの分野だから、ビジネスチャンスがありそうですね。

金森 自社だけの展開には限りがありますが、将来的には同業者や賛同してくれる会社とタッグを組んで、その輪を

広げていきたいですね。そうすると滋賀県下のあちこちで強い選手が出てくる。なぜ滋賀はスポーツが強いのかと思ったら、部活食があったからだとなるのが夢です。

森 海老先生、金森社長、きょうは食について改めて考える機会を作っていたいてありがとうございます。

おいしく楽しい
食でみんなの元気に
金森弘和

●かなもりひろかず
1958年滋賀県生まれ。給食弁当・社員食堂運営・「惣菜おくとさん」営業をはじめ、部活食などスポーツマン向け食事の提供、おみやげ用焼そばそうめん製造販売をしている株式会社富久や代表取締役。滋賀県中小企業家同友会会員。

●えびくみこ
1962年神奈川県生まれ。甲子園大学大学院博士課程後期課程栄養学研究科修了。博士(栄養学)。専門は応用栄養学としてのスポーツ栄養・食事業。管理栄養士として20年にわたって高校球児へのサポートに従事のほか、北京オリンピックでは現地食環境調査、JOC強化指定選手の栄養サポートを担当するなど、さまざまな分野で活躍。2010年、立命館大学スポーツ健康科学部教授に就任。「野球食」など著書多数。

元氣を食から
海老久美子

電力を自らの手でつくる明日へ 福島に市民の太陽光発電所を



麻生 義継

株式会社 東亜電機工業社 代表取締役

まだ環境問題がさほど注目されていなかった時代から、自然エネルギーに熱心に取り組んできた東亜電機工業社。3代目の社長・麻生義継さんは電気工事の仕事のかたわら、世界の未電化地域で太陽光や風力発電を設置するNPO活動を積極的にしてきた経験の持ち主です。21世紀型の環境社会とは？ 真の環境企業とは？ 日本でも自然エネルギーを進めていくために私たちは何をすべきなのかを麻生さんにお聞きしました。

■株式会社 東亜電機工業社(大阪市)

■2012年4月

電気工事の仕事と自然保護 ふたつを結ぶ太陽光発電

自然エネルギーとの出会いは、1982年に京セラが発表した家庭用の太陽光発電システムをたまたま展示会で見たことでした。「これこそ私がやるべき仕事だ！」と直感しました。

私は高校・大学と山岳部でもともと自然が好きだったので、当時、環境問題はまだまだほど大きく取りあげられていなかった時代ですが、32歳で家業の東亜電機工業社を継いでもともと自然保護活動の市民運動をしていました。仕事と自然保護活動を並行してやっている中で気づいたんです。電気が世の中にもまだまだありません。大正10年に創業して以来、われわれ3代は90年にわたって「電気を使うと便利になりますよ」と電気を多く使わせる片棒を担いでいたんだと。その頃、エネルギー多消費社会のまままで工業化が進んでいくと、いずれ成長が限界点を迎えて衰退していくといわれだしました。これからどうしていったらいいのかを考えた時、太陽光発電に



スリランカの小水力発電



マーシャル諸島の小型風力発電と太陽光発電

出会ったんです。太陽光発電は電気をつくるということで、電気屋としての仕事とも接点があつて「これだ！」と思えました。

その頃の家庭用太陽光発電システムは、1軒で2000万円、3000万円していましたからほとんど売れない。そんな時代に太陽光発電をやり始めました。

マーシャルの島に灯った自然 エネルギーの小さな光

そういう活動を電気工事と並行してやっていて、マーシャル諸島に電気を供給しに行くことになりました。私が所属しているNGO南太平洋協会へマーシャル諸島の人たちから希望が寄せられたのです。マーシャル諸島というのはピキニ環礁で有名な太平洋の島国で、4000ほどの島からなる国です。マジエロという首都の島だけにディーゼル発電機が1台だけ置いてあつて電気が使えるんですけれども、他の4000の島はまったく電気がない状態。そうした

〈企業の取り組み－⑤〉

島の中の二つティナックで、アメリカの宣教師が小さな学校をつくって子どもたちに勉強を教えていたんです。電気がないので、ちょっとまわりが暗くなると教室は真つ暗で本も読めない。その教室に照明が欲しいという依頼で、日本の外務省から「草の根ODA」第一号として認定されました。草の根ODAなので渡航費や資材は予算が出ますが、労務費はボランティア。その島に2週間ほど滞在して作業しました。電気がないし、お店もレストランもホテルもない島ですから、滞在中は海岸にテントを張って、薪を集めて火をたいて、海から魚をとってきて自分で食事を作る生活。そういう島に自分たちの手でタワーを建てて、そこに太陽光発電と小型の風力発電をつけて電線で教室に引っぱりたんです。最終日の点灯式に島中の人たちが集まってきて、日が暮れてきたときに「ワン、ツー、スリー」で照明をつけたら、みんなからウォーという歓声が上がって。われわれにとってはたかが小さなランプ一つだけれど、島の人たちの生活はランプがあるのとないのでは



モンゴル遊牧民のゲルに設置された太陽光発電、太陽熱装置



モンゴル遊牧民とともに

☀️ 非電化地域に身を置いて 日本を振り返ってみたら

まったく変わることを実感しました。

そういう経験をした後で、世界を見回してみたいんですよ。日本の外に身を置いてみて、そこから日本を見た時、日本という国がいかに異常な国なのかを感じたんですね。お金を出しさえすればどこでもいくらでも電気が使いたいだけ使えるのが当たり前というのはおかしい。日本には電力会社ができる発電所がたくさんできて、いま問題になっている原発もどんどんできて。どんな田舎に行ってもコンセントがあって電気がつくというのが当たり前。そういう社会に日本人は住んでいながら「省エネだ」「環境だ」という話をしていることがそもそもおかしい。

世界の40%、その頃世界の人口は60億人でしたから24億人の人たちはまったく電気のない生活をしていることを知って、それからは未電化地域へ活動に行くようになりました。例えば40%ぐらい

しか電気がないスリランカ。山の中の農民はほとんど電気がない生活をしています。でも川の水はたくさんある。そこで、小さな水力発電を造って周辺の農村に電気を供給しました。あるいはモンゴルでは、遊牧民は草原にぼつんとゲルをはって生活している。遊牧民は移動するから、ゲルに電線がつながることは将来もあり得ない。それで、太陽光パネル一枚をゲルの屋根の上に置いて電気をバッテリーに貯めることで照明やテレビをつけられようになりました。そういう活動を世界各国……バブアニューギニア、インド、ナイジェリア、フィリピン、アフリカのマリ共和国など電気のないところで行っていました。

モンゴルの遊牧民を例にとると、太陽光パネルの電気をバッテリーに貯めて、彼らは相撲が好きだからテレビをみていました。ところが、突然テレビがブチッと切れたんです。すると彼らは「今日は天気が悪いから2時間しかみられなかった。天気が悪いから仕方がない」というんですよ。そんなことを考えたこともなかったから（笑）、その言葉は衝撃的でした。彼らにとって電気は使いたいただけ使えるものではなく、太陽光パネルで発電してバッテリーに貯まった分しか使えないもの。電気が有限だと分かっているんですよ。ところが先進国といわれている日本では、みんな電気が無限だと勘違いしている。電気はあるだけしか使えない、そういうものだとしっかり認識すれば、エネルギー多消費の社会を考え直すことができます。そうすれば、日本人ももっと具体的に行動を起こすことができると思います。

これからは21世紀型の「環境社会」を構築していく必要があります。環境社会とは環境的に持続可能な経済社会のこと。われわれは経済を除いては生きていけない。環境のために原始人みたいな生活に戻るといふわけにはいかないんです。だけど、20世紀型の経済活動とは違った、21世紀型の環境的に持続可能な経済社会を目指していくべきなんです。環境問題を解決していくためには、ただ単にCO₂を削減するとかソーラーで発電するとかだけでなく、途上国での貧困の解消や教育にも取り組んでいかないとはいけません。だから、わが社は電気屋なんだけれども、電気だけでなく水と食糧、教育の問題も含めて海外で活動をやっています。

リユースまで考えて設計してはじめて環境企業

もう一つ、私がやってきた活動が原子力発電反対です。ずっと私たちが原子力反対と言い続けていても、原子力発電所がどんどんできて、福島原発事故が起ることは初めから分かっていたから止めようといっていたんだけれど。発電会社が強くてわれわれが弱かったのは、電気がないと生活ができないからです。例えば関西電力の52%は原子力でつくった電気。原子力の電気を使いたくなければ、自分で電気をつくるしかない。自分が使う分の電気を自分でつくればいいのだと考えました。

これは他のことにもいえます。生きていくのに不可欠な水と食料とエネルギー、この三つを自分たちの手にもつことが

大事だと私は思っています。自分が必要とする分は自分でコントロールできるようにしておけば、さまざまな社会的な問題が起きて、ちゃんと生きていくことができる。先進国であり工業国である日本は、そうした方向へ向かっていくべきです。

うちの会社は「エネルギーの入口から出口まで」をコンセプトにしています。自分の手で発電してエネルギーをもつことがエネルギーの入口。ところが、エネルギーの入口だけを考えても環境問題は解決しないんですよ。一番初めから出口の部分はどうするかを設計しないとだめなんです。風力発電も太陽光発電も省エネランプも確かにいい。だけど、それが使えなくなつた時に全部廃棄物になつたら、公害を起したりゴミ捨て場がなくなるといふ問題が起きる。それでは意味がない。それなら、初めから廃棄するところまで考えてものづくりをしていくべきなのです。

太陽光パネルだつて「環境にいい」とみんないつてるけど、実は環境にいいのかどうか分からないですね。30年保ち

ますといつても、では30年経つた後パネルをどうするのか、いま誰も考えずに世界中にばらまいている。ほんとうにこれでいいのでしょうか？ 太陽光パネルはガラス・シリコン・樹脂・アルミできています。確かに環境に悪い素材ではない。だけど、製品にして30年後に捨てるとなつたら、割つて埋め立てるしかないんですよ。もう一度太陽光パネルに作り直す、リユースはできない。だから、太陽光パネルもある意味で欠陥商品だと私は思っています。リユースすることも含めて、最初の段階で設計してはじめて、エネルギーの入口から出口まで考えた環境企業だといえると思いますね。

最近では「環境企業」という言葉がよく使われています。例えば自動車や家電などのメーカーは確かに環境に先進的なことをやっています。けれども、そうした会社は実は環境企業ではないというのが私の考え。自動車会社や家電企業などは、みんなもともとは20世紀までの工業社会の主役たち。工業化社会の生き残りの延長線上で環境のこともやっている企業に過ぎない。ほんとう

の環境企業ではないんですよ。だから、ものをつくるときに最終のことまで全部考えた設計をしない。私がこれから目指している企業というのは、エネルギーの入口から出口までを全部きちつと設計して網羅した形で物事を進めていく真の環境企業なんです。何かを製造するといふ20世紀型の会社ではなくて、21世紀型の環境企業になつていかなければいけないと思つてます。

わが社の製品についていいますと、太陽光パネルはシリコンとアルミできていて、表はフィルム。だから非常に薄くて軽いです。20年経つたら、フィルムを貼り替えて再生できます。パネルの中のセル自体はずっと保ちます。しかもだめになつた場合は、シリコンを外してもう一度精製して、アルミはもう一度アルミとして再生できます。こうした捨てるものが少なく、作り直しができる製品をつくつて普及していこうとしています。施工も軽いのでマジックテープで固定できて簡単。ただ、価格は一般的なパネルより2割くらい高いです。



「フィルム状の太陽光パネルです」麻生社長

自然エネルギーを利用して 自分たちの電気をまかなう

現在は、原発事故でたいへんなこと
になっている福島で活動をしています。
あそこには国のたくさんの復興予算や東
電の賠償金、世界中からの寄付金、いろ

んなお金がいっぱい集まってきています
よね。それを使って元に戻すのではなく
て、新しい21世紀型社会をつくっていこ
うという運動です。

具体的には、太陽光発電所企業組合
を福島の各市町村ごとにつくっていっ
て、最終的には福島県民発電所をつくる
のが目標です。つまり、発電所の所有者
は福島県民で、福島の人たちの電気は
100%自然エネルギーで福島県民の
手で全部まかなって、余った電気は東京
や他県に売る。そういう運動をやり始
めたところです。いまは伊達市・福島市・
南相馬市など15市町村で太陽光発電所
企業組合ができあがり、5月頃には20
ぐらいまで増えていこうとしています。

地元のエネルギーですから、地元の人
たちが地元のために使わないといけま
せん。太陽の光だって水だって、全部地
元のもんです。それを大企業にみんな
売り払ってしまつて地元には何もなし
というのが、いままでの福島でした。そ
うではなくて、地元が地元のためにつく
る市民発電所。最終的には、東北電力
とか東京電力とは別に福島県民発電所

をつくって、福島県民が自分たちで運
営する。自分たちの電力は自分たちで
すべてまかなって、余った電力はよそに
売り、その収入で彼らは暮らしていくこ
とを目指しています。

自然エネルギーが日本で 進展しないのはなぜか？

あるいは小型の風力発電機という選
択肢もあります。大型の風車を設置し
なくても、小型風車分散型で発電すれ
ばいいと思います。でも、デンマークや
ドイツでは大型の風車の80%は市民所
有なんですよ。農民がお金を銀行から
借りて自分の農地に大型風車を建てて
発電している。日本もほんとはそうし
た方向に行けばいいと思いますが、日本
での大規模風車はほとんどが大資本の
つくつたものなんですよ。

日本では、耕作放棄地に太陽光発電
や風力発電をつけようと思うと、農地
転用になるんですね。農業委員会に届
けをだして用途変更しないと使えない。
耕作放棄地に太陽光パネルをつけたら、



デンマークの市民所有の風力発電

県からここは農地だから太陽光発電を
つけてはだめだと撤去させられた人がい
るそうです。そんなばかみたいなのが
日本では行われているんですよ。デンマ
ークやドイツは農地にほとんど太陽光発
電や風力発電をつけていっているのに。
太陽光パネルの下を1メートルくらい
空けておくと、パネルの下で羊をそのま
ま飼えるんです。牧草地はそのまま
太陽光発電もつけている。ところが、日
本はそれがなかなかできない……ポリシ
ーがないからです。

「未来に点を打つ」と私はよくいうん
ですね。みんな、いま何をやってらいい
のかわからないですよ。なぜそうなっ
たかという、産業革命以降の工業化
社会で経済がどんどんよくなってきた
20世紀までの延長線上に、21世紀の環
境社会はないからです。ではどうする
か。自分なりに未来にボンと点を打つ
しかないんです。

例えば5年後の自分、5年後の日本
がどうなっているかを具体的にイメ
ジする。そして5年後がそうなるため
にいま何をしなくてはいけないかを考
えていくんです。未来に打った点を正し
いかどうかは誰にもわからない。だか
ら、それが毎年変わったっていいんです
よ。常に軌道修正しながら、だんだんと
自分が目指しているところ、世界が目
指している社会に近づいていくことで
す。日本だけでなく、いまや地球全
体で物事を考えていかないとだめだ
と思います。そのためにも、日本の若い人
たちにはどんどん世界へでていって未電
化地域に身を置いてみて欲しいです。

未来に点を打つ

エネルギーの入口から

あろまで

麻生義健

●あそつ よしつべり1957年兵庫県西
宮市生まれ。大正10年創業の電気設備工
事会社「東亜電機工業社」3代目社長。1
981年大阪府立大学農学部卒業、19
83年には同大学の工学部（電気工学）卒
業。32歳の時に亡くなった父の跡を継ぎ、
社長に就任。高校・大学時代は山岳部に
所属し、社会人になってからは電気工事
の仕事のかたわら、自然保護活動に参加
する。2004年、「自然エネルギー市民
の会」の設立に参加。マーシャル諸島、モ
ンゴル、スリランカなどの未電化地域で
自然エネルギー導入を支援し、2009
年には、NPO法人環境文明21主催の第
1回経営者「環境力」大賞受賞。福島での
原子力発電所事故後、福島県内15市町村
の太陽光発電所企業組合の設立に関わり、
それぞれの企業組合の理事を務めている。



豊郷小学校の講堂。けいおんコンサートも

地域創造事業「いきいき地域ウォーク」

豊郷・愛荘 歴史探訪ウォーク

- ◆日 時 / 2012年3月31日(土)
- ◆場 所 / 9:50 近江鉄道 愛知川駅集合 → 旧愛知郡役所着 → 中仙道を徒歩で北上 → 豊郷町吉田着 → 岡村酒造見学 → タルタルーガにて食事・滋賀県立大学学生と懇談 → 豊会館見学 → 伊藤忠兵衛記念館見学 → 豊郷小学校旧校舎見学 → 15:30近江鉄道 豊郷駅解散
- ◆参 加 / 18人
- ◆主 催 / NPO法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク (環人ネット)
- ◆レポート / 丸山紗千代

2012年3月31日NPO環人ネット主催「地域いきいきウォーク 豊郷・愛荘編」が開催されました。この日はあいにくの雨でしたが、たくさんの方に参加して頂きました。

最初に訪れたのは旧愛知郡役所。近江環人卒業生の富永千弘さんが、実測した資料を皆に見せながら、建物の説明をして下さいました。旧愛知郡役所は、1922年(大正11年)に現在の地に建設されました。全国で現存する郡役所は30数棟ありますが、旧愛知郡役所は滋賀県唯一の郡役所です。また発見された貴重な文書とともに、明治から昭和にかけての地域の様子を現代に伝える重要な建物であり、歴史的、建築学的に高い価値があるものです。近年は愛荘町がJAから借り受け、倉庫として利用してきましたが、平成22年12月に賃貸契約期間が終了しました。今後、地域資源としての旧愛知郡役所の建物を保存再生し、現在の場所であちづくりの一環として活用していくことが課題となっています。(富永さんに頂いた資料より)

次に豊郷町に移動して、まず岡村酒造

さんを訪れました。この日「金亀酒造まつり」がひらかれており、試飲や酒かすの量り売りなどがあり、参加者の皆さんはいろいろな商品を手に取り、品定めしていました。また、酒造りも説明して頂きました。

お昼ごはんは滋賀県立大学生が運営するレストラン「バータルタルーガ」にて頂きました。ここで参加者一人ずつの自己紹介をしました。常連の方から大阪から来て下さった方もいて、毎回様々な人と触れあえるイベントだと実感しました。最後には全員で集合写真を撮りました。

お昼ごはんの後は、滋賀県立大学生が改修し、シェアハウスとして住んでいる古民家「あったかほーむ いそべ邸」を訪れました。古いものを活かした内装やおしゃれなキッチンがあり、住んでいる人のセンスが感じられました。また、急な階段を上った先にある2階に参加者の皆さんは興味津々で、最初は怖がりながらも次々と登って行っていました。

その後を訪れたのは、藤野喜兵衛さんという近江商人の邸宅、「又十屋敷」です。彼は呉服店の身習いから、柏屋という



「かす汁おいしい。新酒もおいしい。」金亀酒造まつり



②あったかほーむいそべ邸は学生が改修 ①「あじのあるたづまい」旧愛知郡役所

屋号と又十の商標の呉服屋を創って独立し、そのかたわら漁場を開いて廻船業まで経営しました。彼は当時の松前藩から絶対的な信頼を受け、漁場請負いが許可され、周辺の漁場を一手に引き受けたのです。

(<http://www.town.toyosato.singa.jp>より)

また、会館の床の間には井伊大老が訪れた時に起こった暗殺事件の刀痕があったり、首を置いたときのものと伝わるシミがあったりしました。掛け軸の後ろには逃げるための道があったと聞き覗いてみましたが、今はありませんでした。

次に、もう一つの学生シェアハウス「おやえさん」を訪れました。シェアハウスの由来は管理してくださっている方のお名前をそのまま頂戴したそうです。大勢で訪れたにも関わらず全員にお茶を出して下さり、とても元気なおばあちゃんでした。

まちあるきの最後は旧豊郷小学校を訪れました。私は全く知らなかったのですが、そんな私でも建物の美しさや価値の高さがわかりました。階段の手すりには

うさぎとカメをモチーフにした飾りがあったり、講堂にはゆるやかな傾斜や2階部分があったり、教室の扉は引き戸ではなく手前に引いて開く扉であったりと、とても楽しむことができました。記念館ではカロム(彦根に伝わる二人以上で行うボードゲーム)が置いてあり、彦根出身の方の指導のもとカロムも盛り上がり楽しむことができました。

一日でたくさんのお話をまわることができ、とても濃い一日を過ごすことができました。また、まだまだ知らない地域の魅力がこんなにもたくさんあることに、気づくことができました。まずは自分が住んでいる町のまちあるきから始めて、町の魅力を探してみようと思います。

再挑戦!! 丸山 紗千代

●まるやま さちよーい滋賀県立大学環境科学部卒業後、4年間大阪で社会人を経て、2012年4月滋賀県立大学環境科学研究科に入学。



4



5



3

④ 豊会館にて ⑤ 記念撮影「タラバガニ〜」 ③ タルタル〜ガ特製カレーでランチ中

たべて・のんで・ブラブラ 多賀まちウォーク

1月28日に参加者18名で開催しました。多賀を満喫。
多賀大社参詣→もんぜん亭にて、そばの昼食→滋賀県立大学の学生が改修運営する八百秀アパート201号室にて古本市と「糸切り餅」の食べ比べ→多賀株式会社で酒つくりを研修→ひこにゃん田圃米を使った「琵琶の神竜」試飲。



6



9



8



7



11



10

- ⑥もんぜん亭のそばは、透き通ってキリッとしたのが越しが爽やか
- ⑦多賀株式会社にて、近江米を使った新酒の試飲
- ⑧酒つくりをレクチャー。社長の福元修氏、社員の寺島氏(金賞受賞)
- ⑨八百秀アパート210号室の古本市
- ⑩雪景色の多賀大社
- ⑪多賀株式会社本社前で集合写真

脳力開発を学んで 積極的な生き方を身に付けよう

井上 昌幸



一. 脳力とはなにか

① 脳細胞の働き

- 人は誰でも百四十億個の脳細胞を持っています。
- 生涯に活用する脳細胞は数パーセントであるとされています。
- 脳細胞とは「神経細胞」のことで、何十という突起物（シナプス）があり、このシナプスどうしがつながることにより「網」ができます。
- この無数にできる「神経網」が具体的な実際の脳の働きと結果を生みます。
- 繰り返し具体的な行動を実践することにより、「神経網」が強固となり、上達していきます。これを「脳細胞回路」と云います。

② 脳の役割

- 「脳細胞回路」を通じて全身から情報を集めるとともに全身に命令を出しています。
- 脳は高度な精神活動、思考活動を営んでいます。
- 脳の働きや役割は、大脳、小脳、延髄など全系統を含めると、生命活動すべてにわたっています。
- 「行動する」ということは、「脳細胞回路」の体系を動かすことです。
- どのくらい脳を使ったかは、実際行動を見ればわかります。

③ 脳力と能力

- 「脳力」とは、「脳細胞回路を発揮する力」のことです。
- 「能力」とは、脳細胞回路を発揮して、ある特定の分野に対して優れた力を発揮し、よい結果を出していく特性のことです。

二. 脳力開発とは

脳力開発とは「気づく」→「意識する」→「行動する」→「習慣化する」ことにより、脳細胞を活性化してプラス思考を身に付けることです。最も大切なことは「前向きな精神的姿勢を確立すること」です。

「自分で主体的にやる姿勢を つくる」

その反対が人頼りの姿勢（フチ、不平、不満、人やまわりのせいにする）です。

何か問題に気づき、それを直したいと思ったら、今ある条件を自らが主体的に変えることが大切です。「うまくゆかない原因は自分にあり、相手や周囲の環境は条件にすぎないこと」を理解して、「相手や条件を変えようと思えば、まず自ら変わる」。具体的に戦略を立てて、自ら決心覚悟をもって取り組むことが必要です。

「いつも進歩発展をめざす姿勢 をつくる」

その反対が現状に甘んずる姿勢（難し、困った、できない）です。

何かの問題を改善する時に、自ら「現状打破の姿勢」で取り組んでいるか、失敗を恐れたり、人の評価が気になって「現状維持の姿勢」になっていないか？

尻込みせずに積極的に取り組む姿勢をつくりましょう。言葉はイメージをつくり、イメージは脳回路（手、口、足を支配するので、難しい、参った、もうだめだ、など消極的な言葉は使わないようにしましょう。出来るところから、やさしいことからやりましょう。

「他人の利益もはかる姿勢を つくる」

その反対が自分だけよしの姿勢（憎む、バカにする、尊敬しない、思いやらない）です。

私たちはどうしても自分中心に物事を判断します。そして自分さえ良ければと思ってしまう。

「自分に私欲ある如く人にも私欲あり」

「自分に意見ある如く人にも意見あり」

「自分に欠点ある如く人にも欠点あり」と云うことを理解しましょう。

「三方よし」という言葉があります

が、「自分もよし、他人もよしの姿勢」をつくるように習慣化していけば、お

互いに協調できるはずですよ。

「自分で主体的にやる姿勢」「いつも進歩発展をめざす姿勢」「他人の利益もはかる姿勢」の三項目をいつも意識して、行動して、習慣化していけば、「楽しみの人生」が身につくようになるでしょう。

井上昌幸

●いのうえ まさゆき 1940年1月1日生まれ。現在、滋賀県異業種交流連合会会長、STEP21（滋賀県シニラテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合）専務理事、関西師友協会活字塾講師、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人

ニュージーランドの旅で 感じたこと

今関 信子



開拓者が入植してまず建てた「よき羊飼いの教会」

「旅ですか。それならニュージーランドがいい。考えるヒントが与えられますよ。」助言してくれたのは、アイトワの森さんでした。森さんは、京都の嵯峨野で循環型の生活を実践しています。

私が、オークランド空港に降り立ったのは、十二月下旬でした。季節は夏。明るい太陽の下のクリスマスです。オークランド市内を歩いたとき、日本のクリスマス商戦のような喧噪がなく、クリスマスシーズンを感じさせるものといったら、教会の集会所内に見る参加呼びかけくらいでした。私のこの国に対する第一印象は、お金儲け第一主義ではないらしい、というものでした。

ニュージーランドは、ルピナスの咲く湖畔の風景や世界遺産になっている国立公園の自然の景観が、人々の旅心を誘って、日本の人にも人気のある観光地です。私も、ルピナスが見たい、氷河のある自然を、南十字星が輝く夜空を満喫したい、野生の

動物も見たい、と欲張って、旅のプランを立てました。

野生の動物でよく目にしたのは、オポッサムでした。ネコくらの大きさの有袋類です。自動車にひかれて、あちこちでペしゃんこになっていました。「走ればぶつかるほど、たくさんいるんですよ」と、ガイドさんは言いました。ルピナスも、道ばたに野原に湖畔に、思わず声を上げるほど美しく、生き生きと咲き競っています。これらは、外来種なのだそうです。

羊を飼育する牧場に、羊が食べないルピナスが増えて、困っているそうです。観光産業に携わる人々と酪農家達と、どっしり折り合っていくのでしょう。ニュージールランドなら、日本とは違った知恵を出して、乗り切るかも知れないと思いました。なにしろ、やっていることが、日本とずいぶん違っ気があるのです。私は、琵琶湖のそばに住んでいますので、外来種のごことが気になりました。

国立公園への移動中のことでした。

とにかく遠回りするのです。何本もの道路をつくらないし、大きな橋を架けない。一台しか通れない橋では、行き違うために、待ってなければなりません。この国では、自然を守ることが優先されて、人間の利便性はあとまわしなのです。

そうそう、スーパーマーケットで買った果物。見てくれの悪い物が、どっさり来て驚きました。日本でよく見かけるニュージールランド産のみごとな果物。あれは、輸用上の上品でした。ニュージールランドの人は、二級品を食べていました。それが、安く、どっさり買えて、味にわかりがない。

自然と共生しつつ暮らす農業国ニュージールランドを感じ取ることができました。日本は、何を大切にする国なのでしょう。東日本大震災を経験して、私は、満開の桜の下で考えています。



ルピナスの咲きみだれる草原で

共に生きていき
今問屋子

●いませぎのぶこー1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。『さよならの日のねずみ花火』1995 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で」『寺子屋』つくり2003 PHP研究所 など多数

ト暮らして子育て日記

作 オキキ

気温が上がるにつれ、
オノミニユキとその家族
の活動も活発に。



お父さんは
山に木をキリに…



お母さんは川で
オムツの洗濯…



子どもたちは木登り！



一オのうごは
泥水あそび。
びゅちゅ
びゅちゅ



小さな家は今や
大入り満員。



さすがにせまいので



と、家族会議



それに近所の
おばあさんたちが
残念がるんちゃう？



ああ…
お前はこの目だけ
女まか…



またある時は



ああ…
お前は川ののことを



長女はチビをつれて
お散歩したり

おとなりさんに
いってら〜

本を読んであげたり。



お前は小さい子を
上手に相手できる

ようにするのか...
ホーリ

たま〜にだけど
風呂吹き用の木を
運んでくれたり。



風呂の火を見にいっ
てくれたり。



ヘタだけど、マキ割り
しようとしてくれたり。



畑仕事も手伝うし、



よく考えたら
うちの子、マ



イイ子なんじゃないの？
かな。の。に...



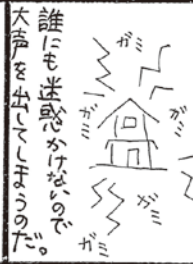
ありかっ
宿題



早く寝て
早く起きて
早く起きろ



そんなのです。近所が
遠いので、怒鳴っても
イカても



誰にも迷惑かけないので
大声を出してしまおうのだ。

体裁が悪いから
やめとこ。と、いうのが
ないのだ



山暮らしの欠点??



あー、川から
カガミが
静め茶葉が
流れてマニないかな?

●オノミユキ(本名加藤みゆき)1974年生まれ。滋賀県平恋賀町育ち。
1997年に朽木村(現高島市)に移住。朽木の自然、行事、人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は3人の子どもを子育て中。

ゲンジボタル

三山 元暎

さし絵: 中川 善雄



露草が咲き始め、昔の子が蛍を捕まえて入れたのが名の由来という蛍袋が淡い紅紫色の花をつつむきに咲かせている。今年も蛍の季節がやってきた。

わが在所、三島池周辺は蛍の名所として知られ、毎年、

大勢の見物客で賑わつ。何百という蛍が群舞するさまは、筆舌に尽くし難いほど幻想的で見入る人を幽玄の世界へと誘う。宵闇に淡く光りながら飛び交う蛍。その姿はいつの時代も、人間の心をとらえ続けてきた。

「みしま江の清き水限に
乱れつる 夜をしる虫の
もえあかすなり」

井伊大老の懐刀として活躍した国学者、長野主膳の門人であった在郷歌人で僧の憲成は、三島池周辺の蛍をこう詠んだ。

文豪、谷崎純一郎の「細雪」にも、主人公である四姉妹のうち次女幸子と三女雪子が、わが古里で蛍狩りをする場面が出てくる。蛍狩りから戻った幸子が、寝床の中でその夜見た幻想的な光景が現実だったのか夢だったのか、回想するシーンが印象的だ。「何か、自分の魂があくがれ出して、あの蛍の群れに交って、水の面を高く低く、揺られて行くよつな・・・」。

あれはいつの頃だっただろうか。青春真っ只中の頃、醒ヶ井養鱒場の奥、靈仙の山中で出合った蛍は忘れ難い。闇

の沢の中から、一筋の青白い光が浮びあがって、ふんわりと宙に舞い、みごとな光の曲線を描いて杉林へと消えた。たった一匹で飛ぶ姿に、幸子が回想したように「あくがれ出る魂」を感じた。

「誰が身よりあくがれ出し
光ぞと 露とつ蛍問えど
こたへず」(長野主膳)。

三山 元暎

●みやま もとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町(現米原市)生まれ。長浜市の理事経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にもない退任。真宗大谷派真勝寺前住職。

●なかがわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVD
をご紹介します。

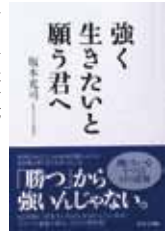
BOOKS

琵琶湖ハンドブック改訂版



- 監修／内藤正明
改定検討チーム会議／中鹿哲、熊合道夫、辻村琴美、西野麻知子、用田政晴
- シニアアウト作成／新江州株式会社
- 発行／滋賀県 琵琶湖環境部 環境政策課
- 内容／初版よりさらに読みやすくなって登場！琵琶湖の姿が幅広く紹介され、知識や情報を共有することができる。

強く生きたいと願う君へ



- 著者／坂本光司
- 発行／WAVE出版
- 価格／1400円＋税
- 内容／40年にわたり、6600社の働く人々の生き様を見てきてわかったこと。「日本でいけばん大切にしたい会社」シリーズ著者が贈る、人生の教科書！

知事は何ができるのか



- 「日本病」の治療は地域から
- 著者／富田由紀子
- 発行／風媒社
- 価格／2000円＋税
- 内容／「もったいない！」人々の暮らし言葉が政治を動かした！滋賀県知事の奇跡。

地域診断法

鳥の目、虫の目、科学の目



- 編者／近江環人地域再生学座
- 責任編集／鶴飼修
- 価格／2940円＋税
- 内容／地域活性化・まちづくり活動のバイブル誕生！「近江環人地域再生学座」人気No.1の授業、待望のテキスト化。

石山アートプロジェクト



- 2009-2011
- 著者・発行／いしアート
- 内容／大津市石山商店街で、ヒト・モノ・コトをつなぐことを目的とした滋賀県立大学の学生たちのプロジェクト。3年間の写真記録。

菜園家族21

1分がちあいの世界へ



- 著者／小貴雅男・伊藤恵子
- 発行／コムズ
- 価格／2200円＋税
- 内容／市場万能主義では地球温暖化は防げない。地球の破局を回避し起死回生をはかる唯一の道は…。

「DVD」遊牧

四季・遊牧―ツエルゲルの人々―
ダイジェスト版



- 監督／山田洋次
- 企画・政策／Nomad
- 価格／5600円(税込)
- 内容／モンゴル・ゴビ・アルタイ山中のツエルゲル村に一年間住み込み撮影された長編ドキュメンタリー。

講演日記

皆様のご支援でたくさんのご講演依頼を頂きました。3月～5月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

■KBS京都ラジオ「さまざまなBeegーション」

日時：3月11日

パーソナリティ：中村鋭一、小川順子

主催：京都放送

ゲスト：森建司

内容：中村氏の軽妙なリードで、当社の紹介と弊誌の案内を。長浜のまちなかスタジオで郊外の良さを語る。

■執筆者懇談会27

日時：3月19日

主催：弊誌

参加：14名

内容：36号企業変革、37号地域創生の特集を決定。取材地や取り上げる方向性を検討。

■「ええラジオ」

インターネットTV

日時：3月19日

パーソナリティ：豊田一美、みちる

ゲスト：辻村耕司、辻村琴美

内容：絵の出るラジオが初お目見え。インターネット回線で新たなメディアが登場。天津のおしゃれなスタジオで、MOH節が炸裂。近江の祭りの魅力もお伝え。

http://aradio.jp

■サティシユ・クマール

「今、ここにある未来 With 辻信二」上映会&「麦の家」山崎隆氏講演



日時：5月12日

主催：ブルーベリーウィールズ紀伊國屋

未来づくり委員会

後援：成安造形大学
協力：ガイアコミュニテイ、まんまるーなな

対象：一般

会場：成安造形大学 聚英ホール

参加人数：75名

サティシユ・クマール「今、ここにある未来 With 辻信二」

内容：インド生まれの思想家、サティシユ・クマール氏の映像ドキュメンタリー。日本人との対話を通じ、「豊かさ」「幸せ」「仕事と遊び」「怒りと変革」の問いにシンクロナイズして答えていく。

「現代人が真に大切にすべきこととは？」会場に来られた方々は、クマール氏の言葉を真剣な表情で聴き入った。

演題：「今ここから拓く未来」（講師：山崎隆）

内容：35年間「麦の家」で「ほどこ」の生活をされている山崎氏。衣食住を家族と共に過

ごす大切な、先代から伝わる循環型の暮らしを、山崎氏の経験と共に話された。

「今を大事にし、『いま、ここ』を生きることが大事」。

質問コーナーでは、被害対策から核家族や働きながらの子育てについてなど、幅広い質問が寄せられた。

■プレス会見

日時：5月15日

主催：サンライズ出版

対象：森建司

参加：6社、長浜市

内容：新刊『中小企業相談センター事件簿』のご案内。喜寿の作家デビュー作として取り上げられる。経営者の悲哀を描いたサスペンス仕立ての中小企業小説。増刷決定。

■滋賀建具協同組合 通常総会講演会

日時：5月15日

主催：滋賀県建具協同組合

組合



対象：会員

演題：「地産地消は建具から」共生経済社会への意識転換

（講師：森建司）
「もったいない・おかげさま・ほどこ」で支える」（講師：辻村琴美）

会場：長浜ドーム宿泊研修館湖北青年会館

参加人数：16名

内容：国内産業を守り育てることの必要性と、国産品を愛用する国民としての誇りを持つことを自身の経験から話した。建具にまつわる逸話として、自身の結婚話の仲人からの忠告を紹介した。「嫁は家に合わせて身を削る建



3000年経営塾

具である。家である夫は身を削ってまで来てくれる嫁を終生大事にせねばならない。参加者は大きくくっつき、弊誌35号に彦根袋町に残る古民家の建具の美しさを作家の福山聖子さんが紹介している。地産品は日本家屋が代表的。機能美の貴重性を辻村は指摘。生活者と生産者の交流の中から、ものを愛する心が芽生えることにも着目した。根底にはM・O・Hの精神が息づく。参加者からは「建具を認識してくれていることを感じた」という声も。

- 日時：5月16日
- 主催：3000年経営塾
- 対象：会員
- 演題：持続社会を目指すライフスタイルの変革
- 会場：浜湖月
- 参加人数：16名
- 講師：森孝之（アイトワ）
- 内容：以前、弊誌でもご紹介した、ライフスタイルコンサルタントの森氏による講演。工業時代から近代時代への暮らしの変革、開墾した土地での森氏自身のエコロジカルな生活を紹介された。
- 「消費は美德」とされた時代から、持続社会を目指すため、ライフスタイルの変革が必要。森氏の暮らしにヒントがある。
- 持続社会を目指すライフスタイルの「必然」の未来へ。「古人の知恵×近代科学の成果」の生活がポスト消費社会に必要と提言。中小企業にできる役割は大きい。

M・O・Hニュース

未来政治塾



未来は多様な仲間できらう
未来政治塾開幕



自治体首長が開講する政治塾が滋賀にも誕生した。嘉田由紀子知事が塾頭を務める、多様な人材育成を目的に乗り出した『未来政治塾』だ。年齢や居住地がさまざま、主婦や学生も参加し、育児室には可愛いベビーの姿も。通学コース200名、ネットコース400名と多くの賛同を得ている。嘉田塾頭は「女性や若い

人など多様な地方自治の担い手が一人でも多く出ることを期待します。4つのお約束です①多様性の尊重②自分のビジョン提示③コミットメント(やる気)④事前勉強で、1年間学びましょう」と塾生に訴えかけた。(日本産経新聞社4月30日。写真提供=未来政治塾事務局)

手話コーナー

手話で話そう、好きな食べ物

協力:びわこみみの里

吉川真世さん

●好きな食べ物
うどん

●私の夢

結婚したい、車の免許とりたい、カッコいい彼女を見つけたい、良い仕事を見つけてがんばって生きたい、ディズニーランド、世界旅行に行ってみよう。



北村嘉登志さん

●好きな食べ物

おにぎり

●私の夢

仕事をがんばってやっていきたい。



「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する心とか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《M・O・H通信概要》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

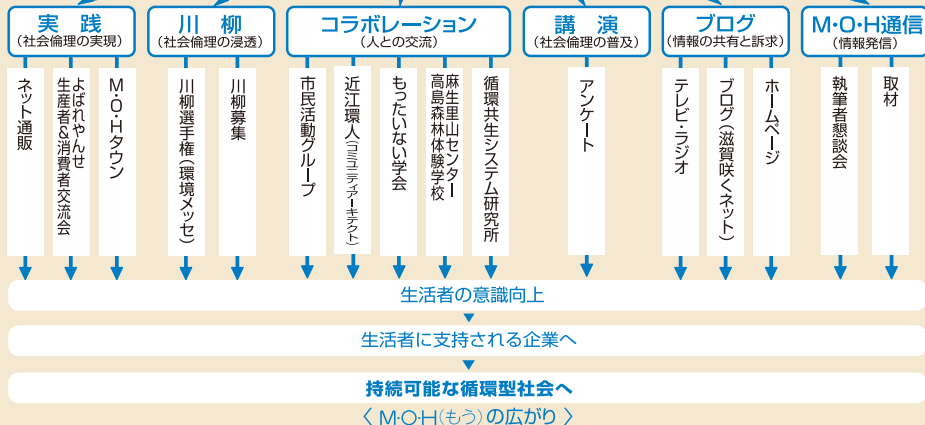
shingoshu.co.jp

代表:森 建司

担当:つじむら ことみ

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★KBS滋賀・M・O・H通信のことお聞きしまして是非、拝読させて頂きたくお願い致します。幼少時から物を大切に!!はしっかりたたき込まれ育ちました。今の世の中、便利になりすぎ物を粗末にしていることに気ががずにいることがとても恐ろしいです。

湖南市 平田尚士

★日本人の友人、中国人の日本語の読める友人に渡します。最近日本留学8年、仕事3年で帰国したという、中国人若手が多く、この雑誌も喜んで読んでいただいております。最近の大連もやっとなイナスになる気温から解放されました。長浜はいかがですか?どうかご自愛ください。

大連 山川信義

★省エネは知恵と工夫下さい

蒲生郡 山田清広

★先日ある方の紹介で本通信を知り、共感できる内容の多さにこれかと思いき、早速申し込むことにしました。

守山市 峯田利男

★「農を中心としたコミュニティビジネス」を標榜し、現在縁あって甲良町の「サンファーム法養寺」さんで研修させて頂

いています。森代表のお話、M・O・H通信を拝聴・拝見させて頂いたとき、大いに共感した次第です。

彦根市 西村健之

★「M・O・H通信」の申し込み手続きをお願いいたします。地育地婚の考え方を基本に、昔懐かしいおせうかいな「仲間おばさん・おじさん」として今後も努力して参ります。

大津市 西原正幸

★2011春号のP47「いきとしいけるもの」一度読んで涙が出てきます。

大津市 下村真司

★地域に恋して・地域社会が守ってきた「わずらわしいもの」への愛しさが募ったのだ。この件が同境遇にある自分の心に響きました。

彦根市 野瀬一夫

M・O・H PEARL

♪M・O・H 習い性なる 若い二人

西宮市 小西寛信

♪省エネは 少しの努力で できること

蒲生郡 山田清広

♪何事も 中途半端じゃ もったいない

彦根市 堀井富美江

《次号予定》

2012年9月発行予定

■特集：『地域創生』私たちが変える

- 対談／「デザインする力」成安造形大学学園理事長 近藤功+森建司
 - 取材／「南淡路に吉備国際大学地域創生農学部誕生」内藤正明監修
 - 寄稿／「緑の分権改革東近江」東近江市 山口美智子
 - 寄稿／「水と緑・安心の野洲」琵琶湖環境科学研究センター 佐藤祐一
 - 寄稿／「親子をつなぐ学びのリレート」国際二宮 尊徳思想学会 中桐万里子
 - よばれやんせ湖北／11月18日開催 ほか
 - 連載／通常通り
- ※ 敬称略、予告なく変更いたします

編集後記

★娘「だれ?私が体育館にいること言ったの。オトン(父)?」父「え?フェイスブックで〇〇さんにつぶやいたケド。娘「〇〇さんの友達の△△さんからフェイスブックしてんの?ってメール来たわ」。アア、こわい世の中になってきた。

★「よさこい」って言いたかった私「よいとまけ」ん?「よっこいせ」ん?あげくに新人「なるとをもちますよね」って、ソレ「なるこ」。ああ、自分がこわい。 —琴—

★はじめまして!新人の上岡と申します。「M・O・H通信やりたいです!」と張り切ってやってきました。編集長はじめ、皆様に「ビシバシ」ご指導頂けたらと思います。初めての取材の天候は「爆弾暴風雨」でした…。 —瞳—

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

《M・O・H通信》申込書 0749-72-8681

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住 所	〒		
電 話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.36(通巻37号) 2012年6月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所

M・O・H通信編集局

代 表 森 建 司

編 集 長 つじむら ことみ

編 集 上 岡 瞳

校正協力 稲垣 重雄

取 材 山 崎 彩

デザイン 伊達デザイン室

写 真 辻村写真事務所

印 刷 ブランセル

ホームページ ブランセル

ブ ロ グ 滋賀・咲くブログ

●創刊/2003年3月度

●執筆者懇談会

内藤 正明 畑 裕子

海東 英和 堤 幸一

山田 朝夫 進 ひろこ

下西 康嗣 中村 誠

末永 國紀 笹山 千怜

花田 眞理子 結城 美枝子

弘中 史子 松崎 和弘

今関 信子 井上 昌幸

山崎 隆 辻村 耕司

三山 元暎 佐々木 洋一

加藤 みゆき 徳永 拓美

清水 安治 山口 美知子

檀上 俊雄 岡部 達平

森 孝之 豊田 一美

(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県

琵琶湖環境科学研究

センター

循環共生社会S研究所

高島森林体験学校

麻生里山センター

NPO法人環人ネット

近江環人 地域再生学座

もったいない学会

野洲生活学校

EEネット

中小企業家同友会

(順不同)

●支援

新江州(株)

〒5260111 滋賀県長浜市川道町759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★

<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★

<http://www.mohmoh.jp/>

MOH図書館

検索 

※記事中で写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。